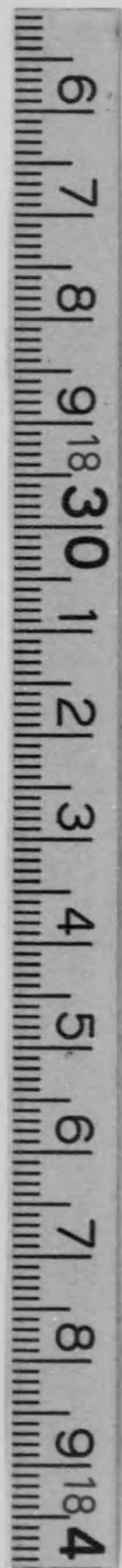


2725

6



始



272.5-6

納本



文部省補習教育主事 岡 篤 郎 序  
新潟縣立新潟  
農業補習學校 主事 松 田 萬 平 著

經營  
七 年  
農 村  
補 習 教 育 の 改 造

大 正  
12. 6 23  
内 交

東 京 博 文 館 發 行

納本

## 序

松田君は新潟師範學校在學中から、農業教育に興味を有せられたのが基となり、小學校教育に多年の経験を重ねられた後、郡立農學校に職を奉じ、特に農業研究に没頭した人である。其後實業補習教育が、國家教育上緊急の事業であることを、感じて居られた折しも、新潟縣立新潟農業補習學校の經營を命ぜられ、大正四年以來日夜農業補習教育に對して、極力盡粹せられたのである。自分は最近上司の命によつて、親しく學校の

状況を視察して、如何に同君が苦心され、如何に失敗され、如何に成功されたかの事實を、眼のあたり直感して最も感慨を深うした一人である。坂井輪村の地は實業補習教育の研究地としては、相當の地であるけれども、其民度其校下の事情は、君の學校經營上非常な困難を與へ、苦辛を嘗めしめたことは實地學校を視察したものの直ちに想像する處である。君の猛進的氣概と熱烈なる青年教育に對する興味が、今日の坂井輪村に新潟農業補習學校のあることを、天下に認めしめたものであると言つてもよい。學校經營上方法の問題に

ついては、視察上批評の餘地はあると思ふけれども、方法の問題を超越して、所謂農業補習學校の精神を以て生徒を教育し、一村の青年は勿論凡ての村民を風化した君の事業は、自分の最も歎賞するところである。昨今君が苦心經營せられた事實を、赤裸々に書き記されたものを整理して、上梓せられることを聞き、世の實際家の參考になることが少くないことを思つて非常に喜ばしく思ふ。今や新潟師範學校は農業補習教育に熱心な共鳴者である、宗像校長の下に君のあることは縣下補習教育の振興に多大の期待をせられてゐる

る。余は本書に序して農業補習教育實際家の参考として江湖に推すと共に、縣下補習教育の爲めに奮闘せられた君の努力に對して敬意を表したいと思ふ。

大正十二年一月

東京大森の海岸にて

岡 篤 郎

例 言

一、大正四年四月十五日西蒲原郡の北阪小針の小學校に、縣と銘の打つた補習學校が新潟師範學校の附設として、設置せられてから春風秋雨茲に七箇年の星霜を経た。

此間學校の仕事の上にも盛衰があり、縣當局が學校に對する要求にも消長があつた。

一、新潟の補習學校は振はない、松田はサボツて居ると云ふことを、幾度か聞かされたが、背景が負數では骨が折れた割合に成績が舉らない親父の借金を引受けて成金になるには中々容易のことでない。

師範の中川氏(當時附屬小學校主事)で本校の訓導現長岡高等女學校長に、君そんなに心配しなくとも愈々のときに旗をまけばそれまで

のことさと慰められたことがあつたが、兎に角旗をまきながらも今日までやつて来た。

一、本書は單に學校の表面の記載に止めないで、事件の成行きを詳説することに努めた。故に補習學校の裏面史であり、又經營七箇年の苦心談である。

故に他の參考書に表れて居る理論や、他の學校の實例などは一つもない。全く著者が頭を悩まし、心を碎き、眼で見、口で言つたところの赤裸々なる告白である。

一、本書出版に際し、特に文部省補習教育主事岡篤郎殿より序文を與へられました。茲に厚く感謝の意を表します。

大正十二年四月三日

松田 萬平識

### 經營 七年 農村補習教育の改造目次

#### 第一緒言

#### 第二創立準備

一、知事の腹案

二、補習學校の設立と兩師範學校長

三、位置の選定及び交渉

(一) 反對の理由

(二) 直接交渉

(三) 職員的選擇

目次

|                  |    |
|------------------|----|
| 第一緒言             | 一  |
| 第二創立準備           | 四  |
| 一、知事の腹案          | 四  |
| 二、補習學校の設立と兩師範學校長 | 六  |
| 三、位置の選定及び交渉      | 八  |
| (一) 反對の理由        | 九  |
| (二) 直接交渉         | 一〇 |
| (三) 職員的選擇        | 一一 |

四、生徒募集……………二

第三開始……………五

一、開校……………五

(一)開校式……………五

(二)教科目及び擔任教員……………五

二、修業年限……………六

三、實習地の選定……………八

(一)實習地設定に關する意見……………九

(二)實習地の面積に關する意見……………二

四、建物……………三

第四生徒及び教授……………五

一、學級編制……………六

二、教授……………三

(一)教授の方針……………三

(二)修身及び公民科……………三

(三)國語及び作文……………四

1. 課外讀本……………六

2. 田園……………七

(1)刊行の要旨……………六

(2)編輯材料の選擇……………四

(3)編輯方法……………六

(四)算術……………四

(五)農業……………七

1. 最主力を注ぐべき事項……………七二

2. 奨励及び改良すべき事項……………七四

3. 生徒の學習狀態……………七四

4. 教授時數の關係……………七五

(六) 研究科の學課……………七七

1. 新聞採用の理由……………七六

2. 新聞の取扱……………八四

3. 經濟科要目……………八六

三、教科目及び教科用圖書……………八七

四、各教科と生徒の學習狀態……………九二

1. 修身及び公民科……………九二

2. 國語……………九三

3. 算術……………九五

4. 農業……………九六

五、農業教授に對する二つの失敗……………九七

六、體育……………一〇〇

七、教授の季節教授時數及び休業日……………一〇一

(一) 初等科及び高等科……………一〇一

(二) 研究科……………一〇三

1. 研究科の年齢……………一〇三

2. 研究科の召集……………一〇四

八、補習教育と冬季休業……………一〇六

第五就學出席……………一一〇



一、出缺席と月……………一二

二、情勢と缺席……………一二

三、實習の問題から九名退學……………一五

四、就學出席の奨勵……………一〇

第六訓練……………一三

一、訓練と修養會の趣旨……………一三

二、體操と訓練……………一四

三、本校の訓練と信仰……………一五

四、修養會……………一六

五、貯金……………一七

(一)預金……………一八

(三)拂戻……………一九

六、修養團との關係……………二〇

第七實習……………二二

一、實習地……………二二

二、實習の方法……………二三

三、實習教授の方針……………二五

四、水田の實習……………二四

(一)苗代……………二四

(二)本田……………二四

(三)大正十一年水稻肥料試驗成績……………二五

第八本校施設の農村に及ぼしたる影響……………一五二

一、水稻東郷の普及……………一五二

二、桃の栽培……………一五五

三、蔬菜の改良……………一五六

(一)温床の設置……………一五六

(二)蔬菜の改良……………一五七

第九收支……………一五六

一、経費の收支……………一五六

二、生産物の處理……………一五九

第十設備……………一六〇

第十一雜録……………一六四

一、七ヶ年の回顧……………一六四

二、就學出席の逸話……………一六六

三、通信教授……………一七〇

四、農事研究会……………一七二

附 録

第一補習教育研究会記事……………一七九

一、研究會の趣旨……………一七九

(一)緒言……………一七九

(二)開會の辭……………一八一

(三)知事の告示……………一八四

二、實地教授……………一八六

三、修養會……………一九一

(一)修養會の趣旨……………一九一

(二)高山會の行事……………一九二

(三)高山會の談話……………一九六

(四)高山彦九郎の歌合唱……………二〇五

四、研究發表及び講話……………二〇五

(一)補習教育の任務……………二〇六

(二)公民科とは何ぞや……………二二二

(三)實業補習學校に於ける教師論に關する研究……………二二六

(四)農業補習教育改造の第一歩……………二四八

五、新潟縣諮問案及び答申書……………二五五

(一)諮問案……………二五五

(二)答申書……………二五五

第二本校學則……………二五九

一、新潟縣立農業補習學校學則……………二五九

一、新潟縣立新潟農業補習學校細則……………三三

七營 農村補習教育の改造目次終

七營 農村補習教育の改造

松田萬平著

第一 緒言

我國の法令に補習學校が生れたのは明治二十六年である。年代から考へれば明治の教育史を飾るだけの資格と責任がある筈だ。

處が補習學校は不振に不備に行詰りと言つた様な失敗の歴史ばかりで、補習學校本來の使命を完うして社會の文化に貢献する迄に漕ぎつけた學校は極めて寥々たるものである。

其れの依つて來たる原因は色々あるが要するに當局も、社會も、教育者も補習教育には油が乗らなかつたのが其主なるものである。

されば實際の教育者側から見ると補習學校なる響は一種悲惨な冷かな感じがした。教育といふ仕事は冷かたで惨じめな感じがする様では成績などが擧る道理がない。先づ從來の法令について論ずるならば、幾多の不備があつたが就中教員待遇の如きは實に慘酷と云うて可然ものである。早い話が中等教員に許す特權を補習學校教員には與へない。又小學校教員に與ふる恩典は之を補習學校教員には及ぼさない。物質上の待遇も精神上の待遇も一向御構なしの状態である。なんでも一番割合の悪いことを補習教育に與へて居つた。

金もなし人もなし、社會の同情もない處に仕事が出来ると云ふ筈がない。然るに輓近各國に於ける補習教育は實に素晴らしい勢を以て發達して

來た。從て我國の補習も何時迄も生死不明の状態に委して置く譯に行かない。是に於てか大正九年に補習教育に關する各種の改正規定が發布せられた。其改正の要點は

- 一、各教科の教授時數の最低限度を示したること。
- 二、教員の名稱の改正及び待遇を向上せしめたこと。
- 三、教員俸給の國庫補助の道を開いたこと。
- 四、教員養成の機關を設けたこと。

是で我國の補習教育の基礎も不十分ながら目鼻がついて來た。所謂ヤリ甲斐のある時期が到來した。

扱て膳立が出来れば後は何の苦もなくトン／＼拍子で進行し、成績が向上される様に考ひられるが、實際補習學校の經營は然く容易なものでない。幾多の障礙と複雑なる社會問題が前途に横はつて居る。

以下章を逐ふて吾人の甜めたる苦き經驗を赤裸々に述べて、同じ道を進みつゝある方々の参考に供したいと思ふ。

## 第二 創立準備

### 一 知事の腹案

大正四年四月新潟縣勸業課の一事業として、本縣産業調査書を二冊相當大部のものを印刷して發表した。之は本縣産業の過去現在の状況を闡明にし、將來本縣産業の向ふところを示したものである。此産業調査書の出來た年、時の縣知事坂仲輔氏は全縣の各郡から地主を初め、實業方面の有力なるもの、及び農會に關係して居る人々を縣に召集して、先に出來た産業調査書を基本として將來本縣産業の向ふ處を決

定した。之が其當時全縣下に向つて盛に宣傳を試みられた新潟縣の産業に關する縣是である。

之より先大正三年十一月通常縣會が開かれるに當つて知事は、農業補習學校を新潟高田の兩師範學校に附設すべき事を知事自ら發案した。當時知事が本校を創立しやうとする目的は二つあつた。一は一般の補習教育を盛ならしめる爲に、初等教育の研究所である兩師範學校に附設して範を縣下に垂れしめやうとすること、二は翌年産業に關する縣是を定めて之を徹底的に一般農家に周知せしめるには、どうしても青年をして補習學校と云ふ關門を通ぜしめてやるより外に良法がないと悟られたのである。知事が此意氣込みで自ら發案せられたものであるから縣會は無事通過した。最も多寡で二千圓に達しない豫算であるから縣會としては問題になる譯もない筈である。

## 二 補習學校の附役と兩師範學校長

縣立の農業補習學校を兩師範學校に附設せられると言ふ意見が縣の内部にあつた際に、江口校長も亦中村校長も共に之に共鳴しなかつたらしい。それは農業補習教育は教育中最も困難な學校で、立派に成功した學校が天下に尠いからである。あれ程世界に紹介せられた獨逸の補習教育でさへ、實際隆々として榮えたのは大都市に於ける商工中心の補習教育であつて、農村の補習教育は思つた程振つて居ないさうだから兩校長が顔をしかめたのも無理はない。其中で最も困つたのは新潟師範の方であつた。それは校長が臆病でもなく、又仕事が面倒臭いと云ふ譯でもないが、高田師範學校よりは非常に困る譯があつた。何故かと云ふに高田の方では普通の附屬小學校の外に、市外金谷村大

字大貫に立派な二學級編制の代用小學校を以て居るのである。此處は全部農村であつて、然かも以前から代用附屬小學校として經營して來たのだから、其所へ補習學校を附設し、小學校の卒業生を集めて補習教育を始めれば何の苦もなく組織される譯である。言はゞ補習教育の背景がちやんと出來て居る。然るに新潟師範の方では代用小學校はなし、海と信濃川の楔形のところに師範學校があるのだから、農業補習學校を設置する位置の見當が付かない。西へ延びて西蒲原郡に物色すべきか、信濃川を越えて中蒲原郡に位置を相すべきかの問題が目前に迫つて居るのであるから、校長の之に共鳴せざるは當然のことである。けれども知事の發案である。所謂鶴の一聲だ。いやおうなしに大正四年四月から兩師範學校に農業補習學校が附設せられることとなつた。

## 三 位置の選定及び交渉

愈々四月から開設となつては最早一刻の猶豫も許さない時が来た。江口校長は先づ西蒲原郡坂井輪村小針尋常小學校を物色して、此處に開設しやうと見込を付けた。當時西蒲原郡には、今の北蒲原郡長である小山龍作氏が郡長であつた。郡長も同郡内に師範學校附設の農業補習學校を開設せられると云ふことは、郡内の補習教育振興上多大の反響あるべしとの考から喜んで之に應じ、早速運動を開始した。坂井輪村長を郡衙へ呼んで其意を申傳ひた。村長も其意を諒とし二ッ返事で引受けた。歸村早々學區會を開いて、學區議員に對し、其事を謀つた曰く、去年の通常縣會で決議になつた新潟縣立新潟農業補習學校を本村の小針尋常小學校に開設することとなつた。之は學區民の非常

なる幸福である。何となれば農業の教授には新潟師範學校の農業の教諭が直接教鞭を執ることとなつたからである。又普通科の教員も夫々優秀の教員が其任に當るのだから本學區將來教育發展の爲に得難い仕合である故に本會では是非承認してもらひたい。尙本學區からは補習學校の存續中水田一反五畝、畑一反歩を無償に提供する責任があると言つたけれども、議員は容易に承認を與へなかつた。

## (一) 反對の理由

時世の進歩は一般の文化を向上させるものであるから本村の如きも現今は教育に、勸業殊に農業土木等に對しては莫大の資金を投じて鋭意農事の改良に努力して居るから、村内の面目は一新されたけれども、以前は有名なる湛水地であつた。従つて連年凶作を見たのである。殊に學校所在地の下坂井輪郷は一層其被害は大であつた。



總ての事業は教育が先驅をなすと言ふことは誰も承知して居ることであるが、連年凶作並び至つた地方としては教育のことより先づ自然と戦ひ自然を征服して作物の増收を圖ると言ふ方面に努力するのは當然の歸結である。殊に補習教育の如きは其當時一般に了解せられなかつたときであるから本村に於て直ちに承認を與へないといふのも亦無理はないのである。

即ち反對理由としては別に大問題といふ程でもないが本村が以前湛水地の爲に一時衰退したことが原因となつて教育の必要を感じて居なかつた爲である。

### (二) 直接交渉

彼此してゐる間に既に大正四年三月になつた、最早生温るい交渉で以て回答を待つて居る譯に行かなくなつた。そこで郡長並に校長は

數次出張し、幾多の折衝を重ねた結果漸くの事で承認をしてもらつた。

### (三) 教員の選擇

補習學校は表面は獨立の學校の様に見えるが、其内容は全く師範學校の附屬であるから、總ての計畫準備は附屬でやれる筈であるが、農業補習學校は學校の性質上、多少其趣を異にしてゐるから、一寸附屬でも手を入れ兼ねる點があつた、縣廳の方針としては補習學校の農業に關する一切のことは、總て師範學校の農業教諭に計劃せしめやうとしてゐた。

處が思ふに委せぬが世の常で、直接其衝に當るべき師範の農業教諭は病氣の爲め、前年十二月相南の地へ轉地療養の身となつた。其後農業教諭は退職となつて暫く缺員となつてゐた。従て補習學校の計畫に一大蹉跌を生じた譯である。内には教諭の缺員、外には候補地の反

對がある、此間に立ちて開校準備を進めて行かれた江口校長の苦心は實に一通りでなかつた。それで先づ差當り候補地の小學校長を極める必要がある。當時自分は新發田農學校に在職中であつたが、江口先生から火急の交渉があつた、然しオイソラと云ふて應ずる譯に行かない、暫時考ひて居る中に、校長は二月二日新發田農學校にやつて來られた。農學校では今日の様な吹雪に、師範の江口さんが只獨りで來られた、何用件かしらと訝しながら迎へた。當時の農學校長工藤氏と暫時談判の結果、自分を轉任せしめる交渉をまとめて即時歸校せられた。

#### 四 生徒募集

大正四年三月五日、新潟縣告示第九十四號を以て、本校を新潟師範學校に附設し、新潟縣立新潟農業補習學校と稱して、初めて表向きに生れ

出た。續いて大正四年三月三十一日付けで自分は新發田農學校から小針尋常小學校長に轉任し、四月六日付で新潟農業補習學校主事に任命された。自分は四月四日に小針へ赴任したから主事の辭令は着任後受取つた。

着任早々先づ小學校の仕事を一通り片付けて、彌々生徒募集に取りかかつた。生徒募集と言つても、他の學校の夫の如く廣く手を延す必要のない學校だから、ほんの小針尋常小學校の通學區域の一部である大字小新と小針との二ヶ字のことであるから、何の苦もない譯の様だが補習學校の眞の意義が十分に了解ない爲に中々思ふやうに生徒が纏まらない。區長を召集して説き、學務委員に頼み、村長と巡回して勸誘すると言つたやうな次第で漸く三十五人の生徒を得た。

小學校の新學年の整理でさへ相當の仕事があるところへ、専任校長

でない自分が、一人で小學校の放課後及び夜間生徒募集に奔走し傍ら、  
實習地や、殊に苗代の準備、作付の設計等殆んど不眠不眠で奮闘を續け  
た。此當時父兄から聞かせられた話を序でに紹介すれば次のやうで  
ある。

- 一、補習學校を小針の學校でやつて下さるのは、有難いことだけれども、  
生徒が出るか否かは疑問である。
- 二、學校の先生が百姓の子供に鎌を持つことを教ひるなんて、御門違ひ  
ではないか。
- 三、百姓の子供に、あまり學問をさせると生意氣になるから補習學校へ  
は入れたくない。
- 四、仕事の差支にならぬ様にして願ひたい。
- 五、田植二ヶ月、稻刈二ヶ月は必ず休むことにして下さい。

開いて極樂見て地獄とは實社會を喝破した標語であるが、吾人は之  
を目のあたりみせつけられながらもコツコツとやつてのけた。

### 第三開 始

#### 一 開 校

##### (一) 開 校 式

大正四年四月十五日、小針尋常小學校に於て、愈々開校式を擧げるこ  
ととなつた。此日の入學者は三十五名で、來賓は村長外村内有志の參  
列の上、開校式兼入學式と言つた様な簡單なる式が行なはれた。

##### (二) 開校當時の教科目及擔任教員

科 目

身 體

第三開 始

每週教授時數

一

氏 名

中 川 秋 坪

一五

|   |       |     |       |
|---|-------|-----|-------|
| 讀 | 方     | 三   | 山本信雄  |
| 作 | 文     | 一   | 佐々木峰實 |
| 算 | 術     | 二   | 山本信雄  |
| 農 | 業(蔬菜) | 三   | 石井幸一  |
| 同 | (肥料)  | 二   | 松田萬平  |
| 實 | 習     | 無定時 | 松田萬年  |

## 二 修業年限

修業年限は學則には、初め一ヶ月以上、一ケ年以内となつてゐた。之は現今の趨勢並に國家の要求より考察すれば、實に物足りない感じがする。けれども創業の際と云ふものは全く無經驗のものが、單に札の上で立案するものであるから、随分實際の事情と掛け離れた草案をすることがあるものである。今一つは前に述べて置いた通り、主要なる目的は産業に關する縣是の徹底にあつたのだから、一箇年位やれば大

抵よからう位のところで、此修業年限が決定したものらしい。

けれども一ケ年やつて見ると、大正四年度末即ち大正五年三月末に修了した生徒の大部分は、再入學を希望し、大正六年に至つても同様の趨勢であるので、大正六年四月修業年限を三ケ年に延長した。本校創立より第四年目、即ち大正七年度の初めに於ても、尙引續き就學を希望するもの多きを加ひて來たから、止むを得ず之を別科と稱して收容して來たが、昨年補習學校規則が發布されたので大正十年からは全部此規則によつて實施してゐる。故に現在の編制は次のやうにして置く。

- 初等科(前期) 二ケ年
- 高等科(後期) 三ケ年
- 研究科 三ケ年

と言ふ様に修業年限を八ケ年の組織を取つてゐる。尤も研究科は

學科課程表に示してある通り、教授時數が割合に尠いから、本校の實際の教養期間は五ヶ年と見てもよい。従て卒業證書は高等科の修了の際に與へることにしてゐる。

### 三 實習地の設定

實習地は縣の要求通り、水田一反五畝歩畑一反歩を學區より提供したが此土地は實習地に甚だ不適當と云はざるを得ない土地である。水田は兎に角此地方としては普通の土地であるが、畑地は實に御話にならない程、悪い土地である。何となれば兩方は人家であるから空氣の流通悪く、爲に病蟲害の繁殖多きのみならず、地下水位が高い爲に、根菜類の栽培をなすことが出来ない土地である。剩へ一方は掘抜井の水が常に灌流してゐる小溝がある爲に、一酸化鐵が地中に滲透して、作

物根を害するのであるからたまりごとがない譯である。それだから此處に栽培の出来ない作物は随分ある。

又此地方は、部落の附近に苗代を設けることの出来ない處であるから、學校より約五六町程隔たる山添に苗代を設けた、此管理には尠なからざる苦心がある。

#### (一) 實習地設定に關する意見

本校の實習地が、前述の通り不便不良の土地である爲に、經營者を長く苦しましむること實に一通りでない。よつて今左に實習地の設定に付き吾人の意見を附加して見やう。

農業學校の實習地を選定するには、決して急ぐ必要はない、學校は相當の生徒を得之に適當の教員が配置せられれば、それで兎に角學校が組織される譯であるから、其後で學校の職員は生徒に栽培せしめる作

物の種類は何。研究に要する作物は何。試作用の作物は何。と一々學校の方針から割出して栽培作物を決定し、其方針が立つたならばこゝろは、各種作物の栽培に最も好適する土地を選定して、初めて學校の實習地を極めても決して遅くはないのである。そして實習地は必ずしも一ヶ所に限る必要はない、寧ろ實習地の理想からすれば、數箇所にあるのが本體である。何となれば同一の土地で各種の作物栽培に恰適する譯はない筈である。然るに多くの場合、實習地の決定は教育に何等の理想も意見もなく學校創立委員といつた様な素人が集まつて、彼處がよいとか此處がよいとか。地代が高いとか安いとか言ふて定めることとなる。一方地主は又成るべく粗悪なる土地を高價の地代で賣付け、又は貸付けやうと努める。斯かる土地を預かつて立つ學校當局者は實に容易ならざる苦心である。又單に學校職員の迷惑ばかりでなく、將來教育上に及ぼす缺陷は大なりと云ふべきである。

(二) 實習地の面積に關する意見

農業補習學校の實習地の面積の廣狹は、どれ位を可とするかは、其學校の生徒及び職員の配置、農夫の有無等によりて決定すべき問題であるが、廣きに失するよりは、差支のない限り狭い方がよい。實業學校の實習地の面積の廣狹については學者によつて其意見を異にしてゐるが、徒らに廣い面積を擁して雜草の繁茂に委するか、或は生徒を勞働者の如く使役するは賢い方法ではない。殊に職員生徒共に片手間の補習學校で、農夫のない學校などで廣い面積の實習地を經營するなどはとても出来る相談でない。

處が教育に無理解の官吏や、生徒の勞働能率を考へない人々は、往々にして實習地の面積の廣大なることを要求するものである。

自分が嘗て或上司の方と補習學校の話をしたとき、談偶々實習地のことになり及んだ。其時對者は吾人に向つて、君が經營してゐる實習地は實に狭い、丸で猫の額位のところではないか、あれが補習學校の實習地などとは實に恥しい話だと、何邊も繰返された。之は話せないと思つたが、あまりの事だから自分は次の様に辯明した。

御話は御尤の様だが、現在小學校の農業科を除く外の實業學校は大抵其職員數は、學級數の二倍以上を配置してある。其外農夫助手研究生と云ふやうなものも加はつてゐるから、假令實習地の面積が廣くとも優に經營が出来ます。けれども私の補習學校のやうに、職員生徒共に片手間で少しも餘裕のない學校では、廣い實習地は經營し兼ねますと言つたことがある。

一體其道に這入つて苦んだものでないと、物の適量と言ふものの想

像が付かない。素人から考へると何々學校の實習地と言つたら、眺望のよいところで、少くとも一箇所に四五反歩の土地を有し、周圍は垣作りの果樹でも植え、毛氈花壇には、四季花の絶えないやうなものと思像してゐる。學校の實習地は人氣取りや、上司の思惑に迎合する爲に設置するものでないから、其面積の廣狹に就ては學校組織の可能範圍を出るといふことは感心しない。

#### 四 建 物

本校の教授は夜間であるから、教室其他小學校のもので代用の出来るものは、全部小學校のものを使用してゐるが、補習學校設置と共に建築したものは、農具室と堆肥舎である。農具室は四間に五間の平屋で、堆肥舎は二間に三間の同じく平屋である。當時はまた物價が安かつ

たから、建築費の如きは實に僅少なものであつた。本校の建物としては以上のやうな次第だが、尙建物に對する吾人の希望を述べれば次のやうである。

補習學校が小學校の卒業生を收容すると云ふ點から見ても、小學校の教室其のままを使ふといふことは感心しない。何となれば生徒が補習學校といふ一段高い教育を受けると云ふ感じを強く持たせる爲には、小學校で全く使用しない、特別の教室一つ位は必ずあつてほしい。此三月まで居た古い教室へ又補習學校生徒として登校するでは、人心を新にする所以でない。近來官立、府縣立何れの學校も昇格と言ふことに向つて、大部騒いでゐるやうであるが、此昇格問題の如きも前述の消息をよく裏書してゐるものである。内容さいも充實したら、強て昇格せずとも又角帽を被らないでも、何も差支はない筈であるが、其處に人

情の弱點と、人心の機微がひそんでゐるのである。

尙生徒の訓練の方面を考へても、補習學校専用の教室を必用とするのである。何となれば小學校の教室を、補習學校と共同に使用すると、第一教室の秩序を保つ上に弊害がある。假令ば小學校兒童が丁寧に掃除した後を、補習學校生徒が取亂したり、反對に小學兒童が補習學校生徒の教室を亂雜にしたりする憂がある。

其他補習學校としてなくてならぬものは、圖書室兼娛樂室である。此室は疊敷となし、一寸とした食盤でも中央に置いてほしい。其他校具等のことは後章説明することにする。

#### 第四 生徒及び教授

開校の當初入學した生徒は、大正四年三月卒業したものが最年少者



で、呼年十三歳と十四歳とである、最年長者は丁年のものもあつた。今年齡別を表示すれば左の様である。

| 年 齡  | 一三 | 一四 | 一五 | 一六 | 一七 | 一八 | 一九 | 二〇 | 計  |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 生徒 數 | 一  | 三  | 一六 | 八  | 三  | 三  | 〇  | 一  | 三五 |

### 一 學級編制

先に修業年限のところの説明した通り、現在は組織立つた學級の編制をなして居るけれども、開校當時は生徒の年齢に相違あるばかりでなく、學力の程度も非常に違つてゐた。若し精一杯のところて試験したら、先生と生徒程の差がある、大人と子供、先生と生徒、之を雜然と混同して同一教科を課すと云ふことは、全く出来ない相談である。其でどんな方法で組別したらよいかと云ふに、元來學級編制は生徒の分類である限りは、學力の標準により編制するを最も正當とし、他に何等手段

を加ふる餘地も必要もないやうに見えるが、然し學力の標準のみによりて入學せる生徒を分類したら、其結果は甘く行かなかつたに相違ない。若し此方法によつて、編制するときは、一學級に年齢相異なる生徒、即ち十三四歳の子供も居れば、丁年近い大人も混ぢつてゐることとなる。年少の連中は、丁年近いものと席を同じうして、同一の教科を學ぶことであるから、頗る得意で意氣揚々としてゐるが、之に反して年長者は、誠に面目ない次第だ。それなら大に努力して、少年輩を凌駕するに至れば何等の問題も起らないけれども、天賦の差は之を許さない。其結果遂に不平を起して、缺席勝となる。處が妙なもので、此種の學校は年長者が不熱心となれば、先に興味を以て熱心に登校した青年も、漸く缺席するやうになり、遂に學校不振の原因を作るに至るものである。之農業補習學校は都市に於ける商工業補習學校とは大に趣きを異にする

點である。そこで本校では次の方法をとつた。

學力年齢の二標準になる編制法。

一寸曖昧の様に見えるが、此方法は一等よいやうに思はれたからである。本校では一年目と二年目とは此方法によつて學級を編制した。第二年目にまでもこんな迂遠な方法を執つた譯は第一年目即ち大正四年に入學せなかつた生徒が皆入學をして來たからである。其方法として吾人のやつたことを述べれば左のやうである。或日吾人は生徒に向つて、

諸君の中には従前夜學をやつたものもあり、又本年始めて小學校を卒業したものもある。其外小學校卒業後、全く勉強しないで、實業のみ従事して居たものもあらう。今度諸君に教ふる學課は修身、國語、作文、算術、農業の五科目であるが、修身作文農業の三科目は、同一教材を教

へる豫定である。國語と算術の二科目は學力の程度によつて分けたいと思ふ。然し其分け方は多數の部類に分けることは、固より不可能だが、大體之を三つに分けるつもりである。そこで甲組は此教科書、乙組は此教科書、丙組は此教科書を使用せしめるつもりであるから、各自がよく調べて各々希望の組を申出で、徒らに甲組を希望して始終解らずに過すやうの事があつては、我々先生も甚だ遺憾であるし、諸君の爲にもなるまいと思ひますから、慎重に考ひてもらへたい。其結果大體吾人の意を得て、少し位學力不充分であつても、年長者は甲組を希望し。年少のものは幾分學力優秀であつても、乙組を希望することとなつたが、二三手を加へて、甲組を希望したものを乙組に、乙組を希望したものを甲組へ、編入したものもある。此手の加へ方が餘程加減を要するのである。特に個人別に訓誨して本人の腑に落ちつかせる必要

がある。

大正四年三十五名入學した者の中、中頃九名退學したが復全部復校し、更に六名の半途入學者があつた爲に、學年末には四十一名となつた。大正五年度は、新入學者十九名あつた其内譯は同年小學校を卒業したものが十一名、其他の入學者が八名あつた。新入學者中同年小學校を卒業したものは、全部丙組とし其他の入學者は何れも前記の方法によつて夫々組分をした。

今組別を表示すれば次のやうである。

| 學級 | 學年及組別 |    |    | 學年  |     |
|----|-------|----|----|-----|-----|
|    | 甲     | 乙  | 丙  | 四   | 五   |
| 一  | 甲     | 乙  | 丙  | 學年始 | 學年末 |
|    | 一六    | 一九 | 一六 | 二〇  | 二〇  |
| 二  | 甲     | 乙  | 丙  | 一九  | 二〇  |
|    | 一〇    | 二九 | 一六 | 二〇  | 二一  |
| 三  | 甲     | 乙  | 丙  | 一九  | 二〇  |
|    | 一〇    | 二九 | 一六 | 二〇  | 二一  |
| 四  | 甲     | 乙  | 丙  | 一九  | 二〇  |
|    | 一〇    | 二九 | 一六 | 二〇  | 二一  |
| 五  | 甲     | 乙  | 丙  | 一九  | 二〇  |
|    | 一〇    | 二九 | 一六 | 二〇  | 二一  |
| 六  | 甲     | 乙  | 丙  | 一九  | 二〇  |
|    | 一〇    | 二九 | 一六 | 二〇  | 二一  |
| 七  | 甲     | 乙  | 丙  | 一九  | 二〇  |
|    | 一〇    | 二九 | 一六 | 二〇  | 二一  |
| 八  | 甲     | 乙  | 丙  | 一九  | 二〇  |
|    | 一〇    | 二九 | 一六 | 二〇  | 二一  |
| 九  | 甲     | 乙  | 丙  | 一九  | 二〇  |
|    | 一〇    | 二九 | 一六 | 二〇  | 二一  |
| 一〇 | 甲     | 乙  | 丙  | 一九  | 二〇  |
|    | 一〇    | 二九 | 一六 | 二〇  | 二一  |

| 學級 | 學年 |    | 別科 | 初等科 |   | 高等科 |   |
|----|----|----|----|-----|---|-----|---|
|    | 一  | 二  |    | 一   | 二 | 一   | 二 |
| 一  | 一  | 二  | 一  | 一   | 二 | 一   | 二 |
|    | 一五 | 七  |    | 一   | 二 | 一   | 二 |
| 二  | 一  | 二  | 二  | 一   | 二 | 一   | 二 |
|    | 一〇 | 一九 |    | 一   | 二 | 一   | 二 |
| 三  | 一  | 二  | 三  | 一   | 二 | 一   | 二 |
|    | 一六 | 一九 |    | 一   | 二 | 一   | 二 |
| 四  | 一  | 二  | 四  | 一   | 二 | 一   | 二 |
|    | 一六 | 一九 |    | 一   | 二 | 一   | 二 |
| 五  | 一  | 二  | 五  | 一   | 二 | 一   | 二 |
|    | 一六 | 一九 |    | 一   | 二 | 一   | 二 |
| 六  | 一  | 二  | 六  | 一   | 二 | 一   | 二 |
|    | 一六 | 一九 |    | 一   | 二 | 一   | 二 |
| 七  | 一  | 二  | 七  | 一   | 二 | 一   | 二 |
|    | 一六 | 一九 |    | 一   | 二 | 一   | 二 |
| 八  | 一  | 二  | 八  | 一   | 二 | 一   | 二 |
|    | 一六 | 一九 |    | 一   | 二 | 一   | 二 |
| 九  | 一  | 二  | 九  | 一   | 二 | 一   | 二 |
|    | 一六 | 一九 |    | 一   | 二 | 一   | 二 |
| 一〇 | 一  | 二  | 一〇 | 一   | 二 | 一   | 二 |
|    | 一六 | 一九 |    | 一   | 二 | 一   | 二 |

| 三 | 研究科 |    |    |    |    |    |    |
|---|-----|----|----|----|----|----|----|
| 計 |     | 三五 | 四一 | 五五 | 五一 | 四四 | 四八 |
|   |     |    |    |    |    |    | 六九 |
|   |     |    |    |    |    |    | 七三 |
|   |     |    |    |    |    |    | 一一 |
|   |     |    |    |    |    |    | 一一 |

右表は本校規則の改正と共に、稍複雑のやうだが、自然の推移を窺ふことが出来る。即ち大正四五年度は修業年限一箇年であつたから、再入學を許可して甲乙丙の三組の複式となし。六年度は修業年限三箇年に延長せられた爲に、學年制をとり。只三學年だけ開校當初よりの甲乙其ままとして二組とした。

七八年度は、三箇年の補習教育を修了し、更に修養を繼續せしめる爲に、別科を置たのだ。九、十年度からは新に法令が發布になつたから、總て之によつて、學級を編制したものである。此處に特筆すべきことは、本校の自然の推移になれる組織が國及び縣で、制定した補習學校組織と、偶然一致したことである。着實な研究が輿論と一致したことを知

りて眞に快心の至りである。

## 二 教授

### (一) 教授の方針

教授の方針は學則に示してある、農業に従事するものに必要なる知識技能を授け、併せて普通教育の補習をなすにあるは勿論であるが、農業補習學校の教授は、常に生徒の實生活と極めて緊密なる關係を保たしめねばならぬ。即ち生徒の家庭及び環境にあらはれたる事實と學校の教授とが、相關聯して進まねばならぬ。殊に基礎的知識を附與すると、同時に應用を重んじ一事項を授けたる後には必ず社會上の事實を引證して、之が解決に努むるやうに取扱はねばならぬ。

### (二) 修身及び公民科

修身及び公民に關する教授は、細目に掲げてある徳目について、授けるのは勿論であるが之に、引用する例話及び訓話は、最も新鮮で——近くて——刺激——になる材料を蒐集することに、努めてゐる。故に強て細目の順序によらず、適當なる材料の到來するときは、直ちに執つて之を教材となし、道德的批判をなすと共に、生徒の日常の行爲に律せしむるやうにしてゐる。即ち教法から云へば、例話主義と、會話作法との二方面の形式を取つてゐる。

修身及び公民には別に教科書を採用してないから、教授の都度必ず一枚乃至半枚位の謄寫刷にしたる要項を配布することにしてある。之教授の効果を確實ならしむる爲と、一は生徒が常に或る何物かを讀解せんとする欲求を、満足せしめんが爲である。

### (三) 國語及び作文

國語は後段記載の教科書によつて教授してゐるが、普通の取扱ひをすると同時に、辭書辭林の使用に熟達するやうに努めてゐる。又補習教育は最終の教育、殊に完成教育であるから卒業後は獨立で識見を高めねはならないのだから、獨學の習慣を養ふ様に導かねばならぬ。又國語科の内容は地理歴史を兼ねてゐるのだから、教材の種類及性質により臨機應變の所置を執ることは勿論である。又常に新聞雜誌に表れたる記事を、謄寫印刷にして、補充教材としてゐる。

元來本校にて使用する、大正青年新讀本は新潟縣教育會の出版にかかるもので、郷土といふことにあまりに重きを置き過ぎた關係上、行文に無理の點があり、且つ國語として最も必要なる讀書趣味を涵養するてふ點に於て、聊か物足りない感じがする。其他現代文が不足であるから、之等を補ふ爲に補助教材を課するのである。尙補助教材として取

扱つてゐるものの中で、茲に紹介して置きたいのは本校で編纂せる、課外讀本と、月刊雜誌田園との二者である。

1 課外讀本

國語の教科書は前述の嫌があるから、本校では特に課外讀本として戰記文、文藝物、漢文拔萃等を集蒐補綴して一小冊子を編輯して、教科書の缺を補ふようにしてゐる。

現在使用してゐる課外讀本は、いくさ物語と稱して、紙數八十頁位の謄寫刷を製本したものである。紙代製本料で實費拾五錢かつた小冊子である。今其目次を左に擧げよう。

課外讀本目次

白河殿を攻めんとすこと。  
義朝の幼少の弟悉く誅せられしこと。  
殿上やみうちのこと。

保元物語  
保元物語  
平家物語

卒都婆流しのこと

小督のこと。

忠度都落のこと

教盛最後のこと。

俊基朝臣再び關東下向のこと

赤坂城軍のこと。

正成が首故郷に送らるること。

平家物語  
平家物語  
平家物語  
平家物語補  
太平記  
太平記  
太平記

以上の外文藝物、漢文拔萃も引續き印刷の豫定である。尙此課外讀本は、高等科(後期)の生徒に使用せしめてゐる。

作文は自作に重きを置いて毎週一時間づゝやつてゐる。之が取扱方法は一般の方法によつてやつてゐる外、殊更取立てて記載する事項もないが、毎月田園を編輯する際に其約半分の頁は生徒の作品を掲載することにしてゐる。

2 田園

田園は大正六年七月の創刊で、今日まで引續き發行してゐる。今此發行の主旨及び内容に就き左に述べよう。

(一) 刊行の要旨

讀書力の増進策は補習教育に於て蓋し忽諸に附すべからざるものである。青年をして讀書の趣味を理解せしめ、大に讀書力を増進せしめるには、適當なる讀物と與ふるにある。此要求に副はんが爲に青年課外讀物として、月刊雜誌田園を發行し、漸く前記の目的を達する一助としたい。尙田園は補習學校生徒にあらざる青年、及び處女會等の連絡指導に利用せんが爲である。言ひ換へれば田園は公義の補習教育機關である。

尙田園の大なる使命としては、通信教授に用へることである。近來農村の青年子女の出稼が漸次増えて來た、之等の出稼人が郷里を出發

するときは、皆相當の希望と理想とを以て出掛けるようだが、一端郷里を去つて一年、二年と經過する間に、郷里との音信も自然と疎遠になり、且つ環境の爲に自然と軟化されてしまふ。爲に初めて郷關を出發するときの清い尊い精神は、いつしか曇つて全く都會化、輕薄化してしまふ。即ち

越後出るとき涙で出たが

今は越後の風もいや。

と言ふ風になつてしまふ。まことに氣の毒な事である、悲しむべきことである、然るに僅かの記事であつても、全く郷里のことを、自分の學んだ學校で、自分の友人が書いた文を讀むと言ふことは、何程彼等にとつて慰安になり、潜勢力になるか知れない。殊に其記事中に兄の記事、弟の記事を散見するときは、愛郷の念禁じ難いと云ふことである。此愛

郷の念は、やがて本人立身出世の原動力となるのである。大正七年三月號に掲載した、森某が妹を送る一短文の如きは即ち夫である。

生んぶが、  
父の考の、  
子も、  
子も、  
子も、

黒煙を残して

三年 森 某

二月二十二日 朝から空一面に曇つて何となく悲しさうに數羽の鳥がないて居る。私の可愛い妹が自分の爲、家の爲に幼い心に決心して、大阪紡績會社へ旅立つた日だ。私は涙ながらに新高停車場まで見送つた。

三月 月め

姫路行きと札の掛つた客車が並んでゐる。九時四十分妹は車上の客となつたやがて汽笛一聲汽車は動き出した。ただ、にくらしい黒煙を後に残すのみで、幼い妹の姿は、遠く遠く途に見えなくなつた。歸途私は妹の無事を祈る爲に白山神社に参拜した。

自分が此記事を編輯するに際しても、嗚呼森よくも白山神社へ参つてくれたと、感謝の涙がこぼれた。いはんや之を翌月讀んだ妹は兄の切なる情に感謝したことであらう。又西比利亞出征中の軍人にも絶えず送つてゐたが、凱旋後彼等は田園のことを最も有難がつてゐた。

(2) 編輯材料の選擇

之が編輯は本校讀方科擔任教員が擔任にし、主として左の事項を採録する。

一、修養に關する事項

例を郷土に採り、努めて具體的に且つ實際的農村青年の修養を説き、自分は必ず筆を執り、之を卷頭に載せ、やがて一時間の修身及び公民教授の材料とする。参考の爲に第三十二號の卷頭の辭を舉げて見れば次のやうである。

出郷の人へ。

我國の人口は、年々五十萬以上増加するといふことだが、之位宛毎年殖えたら人が有り餘つて、ヤリ場に困る筈であるが、事實は全く之に反して、何處へ行つても人手の不足を訴ひてゐる。之はいふまでもなく、各種工業の勃興せる爲に田舎の青年子女を吸収した結果である。さて農家の次男以下の青年は、一度は必ず生家を去つて獨立すべき運命を

第四 生徒及び教授



もつてゐるのだから、出郷必ずしも悪いと云ふ譯ではないが、人は三年か五年の働きで一生涯を終るべきものでないから行く末のことをよくよく考へた後に決行すべきである。然るに都會へ出れば四圍の束縛がなくて、氣樂だ、自由だ、位の考ひで出郷するのは身を誤るの甚しいものといふべきである。敢て出稼者の爲に一言の警告を與へて置く。

一、農事に關する事項

本校實習地に於ける新しき試みや、各地に於ける農業上の新事實を録し、以て教授事項以外に汎く及ぼすことにしてある。第五十號に擧げた農業に關する記事を掲げれば。

實習地のいろく

花除蟲菊

驅蟲の効は白花に較べると、遙かに劣るが、初夏の花として實に棄て難い風情がある。今年も相變らず實習地の入口を賑はしてゐる。忘れぬうちに付け加へて置くが、種子入用のものは豫め申込んで下さい、少づゝなら上げられます。

馬鈴薯

第一學年の擔當、初めての栽培としては止むを得ませんが、一寸出來方が足りない、然し下種期の後れたのは主任の罪である。

南瓜

之は少し説明する必要がある。敢て敗將兵を語るの類ではないが、専門家を以て任じてゐる小針の老農で、さい、土畑にはロクな南瓜が取れぬと言つてゐるのに、吾人が數年研究の結果、立派に南瓜を取る様になつた、其由來を述べよう。

土畑だから南瓜が甘く取れぬなどと云ふ理由は決してないのだ、然るに實際土畑から南瓜が取れぬといふのは、次の理由に基くのである。

- 一、蔓が馬鹿に延び過ぎること。
- 一、孫蔓切りを油斷すること。

そこで吾人は南瓜の蔓の配置方法を考へた、なんでも孫蔓切りを容易にすることさへ考へれば、結果は確實に得ることが出来るだらうとの推測で、丁度果樹の垣根仕立のカンテラール法を南瓜に應用したのだ。元來南瓜の蔓は親蔓が稍延びて、小頭をかたげた處から本葉四枚残して摘心し、四本の子蔓を放射状に誘引して結果せしめるのが普通である。(新潟市に接する關屋から青山小針方面の砂山畑は、かうした

蔓の配置をすれば蔓の徒長が著しくないので、南瓜は割合よく成花が止まるのである。此方法は養分の分配からすれば最もよい方法であるが、茲に一つ困ることは、各鞍の南瓜が皆此方式に摘心するのであるから、蔓が延びて来ると、子蔓が相交错して来ると、そこへ不用の孫蔓が出て来るので、少し油断をすれば、それが子蔓か、不用の孫蔓か、殆ど識別し難くなるのである。然し毎日見廻つて、孫蔓切りをやればよいけれども、交错してある蔓を一々辿つて、孫蔓を切ることは中々骨だ、殊に四五日雨でも降るか、何か忙しい事情の爲に見廻りが出来ないこともあつて、どれが子蔓か、孫蔓か、殆んど手の付け様がない程に、重なり合つてしまふ。かうなつて来ると、自然日光の透射井に、空氣の流通等を妨げられて来るから、いくら人工交種をやつたのでも、バタバタと落果してしまふ。そこで吾人は先に言つた様な新しい試みとして、蔓の誘引を果樹のカンテラールアル仕立に倣つたのだ。此方法でやれば、各鞍から出る蔓を皆平行に導くから、不用の蔓、即ち孫蔓は常に子蔓に對し、直角の方向に出てくるから、なんでも、横に出たヤツをチヨキ、チヨキ切つて行けば、完全に摘心が出来、しかも大切な子蔓を誤つて切斷するやうな失敗を招くことがない。殊に摘心の時間は普通の十分の一位で出来る。此蔓の配置方法は、南瓜の生態上から考察すれば幾分無理の點もある。

が土畑で蔓が延び過ぎて、結果の無束覺とこころは此方法によると收穫は確實である

陸 稻

例の通りピラピラと生ひてゐる。之が八月になるとあの様な大きな株になるとは一寸想像がつかない位だ。

ザイトウイッケン

麻生博士の獨逸土産。三重縣で栽培に成功した綠肥用の豆科植物である。坂本技師の御好意によつて戴いた種子である。あの畑一枚で下種したのだが自分の不注意から人足が今春雜草と間違つて取つてしまつた。端の一畦だけ、僅に厄を免れたのが、あんなに繁茂した。昨年の嚴寒にも何等の寒害を受けなかつたところから見ると、將來紫雲英を壓倒して、本縣綠肥の覇をなすであらう。

花柳菜及び甘藍

何れもニコニコとして、秋の結球に自信があるらしい。

一、社會的事項

時事問題の報導につとめること。

一、民育に關する事項

第四 生徒及び教授

所謂公民教育教材の蒐集につとめ、本校に入學せざる小學校卒業生をも指導せんとするのである。

一、作文に關する事項

田園發行の使命の一半は、生徒の作文を掲載して綴方成績の向上を期するにあるのであるから、單に補習學校生徒にのみ限らず、小學校五、六學年兒童の作品をも掲載することにしてゐる。

一、趣味的事項

短歌、俳句、新體詩、一口噺

(3) 編輯方法

毎月一日原稿を整理し之を印刷所に囑して十五日發行とする。

(四) 算術

算術は補習學校の各學科の内でも、教授に最も困難な教科である。

けれども補習學校教育の能率を増進せしめるのに、随分有力な科目である。何んとなれば總ての知識を數理的に證明して行くからである。農業補習學校の算術は名は算術であるけれども其實各教科の整理仕上と見ることも出来る。金利の問題を解くに當つては貯蓄の獎勵をなし。株券の計算のついでに投機を戒める。町村税の勘定をして納税の義務を解き。壯丁體格検査表の計算をなさしめて、衛生のことを授くる等、全く修身公民の教科を實事の問題について説明することが出来る。其他農業、理化、氣象、植物生理等何れも算術によりて其知識を確實ならしめることが出来る。

故に算術教授に際しては各種の社會的事實、殊に經濟上の變動、諸統計等に注意して可成最近の事實に就て計算せしめる必要がある。本校は初等科には(前期)尋常五六年の教材の復習をなさしめ、新しい算術

形式は之を可成教ひないやうにして、主として既習事項の熟達に努めるやうにしてゐる。高等科に至つては算術の形式的順序に拘泥せず、全く事實を基礎として之が解決の方法を授けることにしてある。例へば、

選種に關する問題。

驅除豫防に關する問題。

等或一事項を解決するには、幾多の算術形式が應用せられることであるが、兎に角事實を算術によつて確實に會得し、そうして敏捷簡便に日常の用を辨ぜしめるやうにしてゐる。それから我々の生活上、計算には珠算が最も便利だから、高等科に於ては珠算を主とし筆算を副としてゐる。

序でに附加して置きたいことは補習學校の教科目中、教授に最も困

難なものは算術であることである。吾人の要求を満足せしめる算術教授をするには、農業に精通するは勿論、公民的事項に就ても、十分なる理解あるを要する。今左に本校高等科に於て教授する算術の例題を掲げて、識者の批評を乞ふこととする。

高等科第一學年例題

一、選種に關する問題。

水一斗に食鹽三升を投入するとき、約一、〇八の比重の食鹽水を得べし、小麥の選種をなすに當り、一、一八の比重の食鹽水を得んとするには食鹽幾升を増すべきか。

答三升七合五勺。

二、驅除劑に關する問題。

三斗式ボルドー液、一石二斗を製するには、生石灰及び硫酸銅

各何程を要するか。  
但しボルドー液の調合には生石灰及び硫酸銅各一二〇分の割合とす。

答各四百八十匁。

三、寒暖計に關する問題。

明治四十二年八月六日新潟市は攝氏三十九度に達し、新潟測候所創立以來の最高溫度を示したり華氏の何度に當るか。  
但し分以下は四捨五入せよ。

答百〇二度四分。

四、労働に關する問題。

各月の労働日數調べ及び速算。

五、郵便物に關する問題。

第五種郵便物二百二十匁の郵税何程なるか。

答八錢。

附記第五種郵便物は最重三百匁迄とす。

六、輸出入に關する問題。

左記輸出来の總計を求む。

大正九年度輸出四等米。

|     |         |     |        |     |        |
|-----|---------|-----|--------|-----|--------|
| 新 潟 | 六八、二九五匁 | 與 板 | 六、八二八匁 | 安 塚 | 一、一四三匁 |
| 新發田 | 一〇、九九一  | 長 岡 | 二四、〇五七 | 高 田 | 四一、八三一 |
| 新 津 | 一一、二四九  | 小千谷 | 一、九一八  | 糸魚川 | 七八五    |
| 卷   | 八、九七七   | 六日町 | 一九     | 村 上 | 一、三六五  |
| 三 條 | 三九、四五二  | 十日町 | 二三     | 相 川 | 一一、四四一 |
| 津 川 | 八       | 柏崎  | 一一、九八四 |     |        |

答二四〇、三六七俵

七、貯蓄に関する問題。

八、收支計算。

左記細目により適宜數を記入せしめ收支計算をなさしむ。

|        |       |
|--------|-------|
| 收入     | 支出    |
| 農産物賣却代 | 種苗費   |
| 畜産物賣却代 | 肥料費   |
| 農産製造品代 | 飼料代   |
| 副業收入   | 土地改良費 |
| 雑收入    | 農具費   |
| 計      | 雇人給   |
|        | 租税    |

計 雜 費

九、採種に関する問題。

葱種子は、精良なる母本三十五本にて一合の種子を得べし。

今株間五寸一株二本植長さ四間の畝十畝より何程の種子を得べきか。

答二升七合四勺。

一〇、地積に関する問題。

不正形の土地測定計算。

一一、播種に関する問題。

白菜一反歩を栽培するに、種子四合を要す。十五坪の家庭實習地に要する種子は幾多を要するか。

但し種子一合の重量は三十匁とす。

答六匁。

一二、氣象に關する問題。

一、耗の降水量は、一坪に對し一升八合三勺なり。一反歩に對し何程の水量となるか。

答五石四斗九升。

一三、蔬菜の收穫に關する問題。

大正十年二月初旬の新潟市に於ける葱の相場は、四本束一把一錢七厘なりしが、月末に至り一把一錢に下落せり。葱七荷に對する差額何程なるか。

但し葱一荷は五百把とす。

答二十四圓五十錢。

一四、作物蕃殖に關する問題。

桃の芽接をなすに、砧木一本に二芽づつ芽接をなすとすれば、三千六百十五本の苗木に芽接するには何程の枝條を要するか。

但し一枝に十二芽づつとること。

答六百二本半。

一五、積算溫度に關する計算。

或種の作物生育期間中に於ける毎日の平均溫度の合計。(速算)

一六、苗代に關する問題。

苗代に砂を撒布するときは、種粒の沈下を防ぎ得べし、今一坪に對し砂を一斗五升五合づつ撒布するとすれば、五畝二十

五歩の苗代に撒布する砂の量を問ふ。

答二十七石一斗二升五合。

一七、害虫繁殖に關する計算。

苗代に飛來する三匹の二化螟蟲の雌蟲が産卵せる卵より、發生する螟蟲が完全に成育するものとすれば、稻の收穫期には何程の數となるか。

但し、一回の産卵數を四百粒とし雌雄同數として計算せよ。

答二十四萬匹

高等科第二學年例題

一、苗床に關する問題。

長さ十二尺幅四尺の温床に要する醗熱材料何程を要するか但し一坪に要する醗熱材料次の如し。

厩肥八〇貫 貫以下四捨五入。

人糞尿二荷(一荷は四斗)

切藁二〇貫

木葉一〇貫

答厩肥 一〇七貫

切藁 二七貫

木葉 一三貫

人糞尿 一石七升

二、養畜に關する問題。

豚を屠殺して、血液及び臟腑を去るときは、生豚量の十分の七の重量となる。更に骨及び皮を去るときは、其五分の三となる。二十貫の生豚を屠殺すれば肉幾斤を得べきか。又之を一



斤八拾錢に賣らば代價何程。  
但し一斤は百匁とす。

答 八貫四百匁。  
六十七圓二十錢。

三産米に關する問題。

産米検査成績の統計、並下、並上、中米、上米及び不合格米等の比較。

四肥料評價に關する計算。

大豆粕十貫匁の眞價を問ふ。  
但し

窒素六、五 磷酸一、五 加里二、〇とし一成分の價格は窒素六十錢、磷酸十五錢、加里十八錢として計算せよ。

答 四圓五拾壹錢五厘

五搗耗の問題。

大正七年一月頃玄米一石の代價は二十二圓。白米は二十六圓なりき。或人白米を購入する代わりに、玄米一俵(四斗入)を購入入れ精白したるに、白米三斗七升を得たり。時價の白米を購入するに比し何程の利益なるか。  
但し搗賃は糠を以て相殺するものとす。

答 八十二錢。

六縣郡村是に表れたる問題。

速算

七肥料の問題。

左の肥料三要素の合計を求む。

大豆粕二枚

種油粕四貫

人糞尿百貫

答窒素一<sup>貫</sup>六八〇匁

磷酸 四二〇匁

加里 六〇二匁

八肥料配合に関する問題。

堆肥、骨粉、干鰯、藁灰を以て窒素二貫、磷酸一貫五百匁、加里二貫の割合に配合せんとす。各肥料幾貫を要するか。但し分析表は別紙の通り。

答干鰯二十貫

骨粉 一貫四百匁

堆肥 百貫

草木灰十二貫

九税金に関する問題。

既習教材の稍複雑なる計算。

一〇坪刈の計算。

一坪に一升八合の紐を得たりとせば、紐摺歩合を六合として

一反歩の玄米收量何程なるや。

答三石二斗四升。

一一、施肥に関する問題。

一反歩に藁灰二十貫施用する場合に、磷酸及び加里として幾何施用せられたるか。

答磷酸四百二十匁

加里九百匁。

一二、厩肥の問題。

左記の場合に於ける厩肥の産量を問ふ。  
蓐草十貫。飼料に麥八貫匁給したるものとして計算せよ。  
公式は次の如し。

$$\left( \frac{\text{國產糞草} + \text{蓐草} \times \text{糞草} \times \text{糞草}}{\text{糞草}} \right) \times \text{糞草}$$

答五拾六貫匁

一三、堆肥の計算。

種々の材料にて堆積せる堆肥の成分計算。

一四、牧草に関する計算。

反當四百貫の紫雲英を得るとせば、一反五畝歩の土地より何程の肥料成分を得たることとなるか。

但し生算中に含有する三要素量左の如し。

窒素 磷酸 加里

〇、四八 〇、〇九 〇、三七%

答窒素 二、八八〇貫

磷酸 〇、五四〇

加里 二、二二〇

一五、肥料天然給源の問題。

西蒲原郡坂井輪郷三百町歩の耕地に對し、窒素の天然供給料を問ふ。

但し東京農科大學の調査數によりて計算せよ。

答二百十二貫四百匁。

一六、收穫物中に含有する三要素量の計算水田一反歩より玄米

二石五斗を得るとすれば土地より吸収せる三要素の量如何  
但し玄米一石に對する粃殻及び藁の重量次の如し。三要素  
含有成分は別紙。

玄米三十八貫、粃殻九貫五百匁、藁六十二貫。

答窒素 二、四一三匁

磷酸 〇、六三五

加里 一、六二三

一七、養蠶に關する問題。

框製五枚を飼養するに、桑園何程を要するか。  
但し一反歩の桑の産量を三百五十貫とし框製一枚飼育に要  
する桑の量を四十八貫として計算せよ。

答六畝二十四歩

第三學年の例題

一、收穫に關する問題。

左記の場合に於ける陸稻の收穫高を問ふ。  
陸稻一反歩に對し一石三斗五升を得るとすれば一反六畝十  
五歩には何程の收穫を得べきか。

答二石二斗二升七合五勺。

二、物價變動に關する問題。

毎月調査せる物價表の計算、速算。

三、肥料購入時期と金利との問題。

大豆粕は普通前年中に購入するときは安價にして、施用期に  
於て最も高價なり。今前年十二月に六百圓價購入せしもの  
と、同量の大豆粕を翌年五月に至り購入せしに丁度一割の騰

貴を示せり。金利を月一步とするとときは前年購入者は何程の利益を得たるか。

但し購入は十二月一日及び五月三十一日として計算せよ。

答二十四圓の利益。

四、土地賣買に關する計算。

大正四年當時、水田の賣買價格は、地價の十五倍にして、大正九年は地價の五十倍に騰貴せり。今一反歩十二圓の地價を有する土地を一町二反五畝歩を賣買するとすれば、大正四年と同九年の賣買價格に何程の差額を生ずるか。

答五千二百五十圓。

五、株券に關する問題。

株券の利廻り計算。

六、小作料に關する問題。

大正六年或人一反歩地價二十五圓の田を、一反歩五百圓に二反歩買入れ、之を一反歩に對し、一石の小作料として他人に貸付けたり。玄米一石十八圓のとき公課を引き去りたる純益は、買入代金に對し何程の利率に當るか。

但し公課は地價百圓に對し地租四圓五十錢、地租一圓に付き

縣稅六十九錢五厘、村稅は二十一錢として計算せよ。

答三分一厘七毛強。

七、農業土木に關する問題。

縱二十五間横二十四間の面積あり、其の周圍に幅二尺の明渠排水溝を設くるときは栽培し得る面積は何程となるか。

但し坪以下は四捨五入。

答一反八畝二十八歩。

八、農産製造に關する問題。

豆腐一丁二十錢の場合に二十丁の豆腐の利益何程。

但し豆一升の代價を十六錢とし、一升の豆より五丁の豆腐を得るものとす。

答三圓三十六錢の利益。

九、耕地整理の問題。

或地方に、三百二十八町歩の土地を耕地整理したるに、整理費三萬九千三百六十圓を要せり。然るに整理の爲に前記の反別に對し百分の六の増歩を得たり。之を各組合人に按配せしが土地の時價に見積るときは、整理費を差引尙九千八百四十圓の利益を得たる勘定なり。一反歩の時價何程か。

答二百五十圓。

一〇、産業組合に關する問題。

一、組合員預金の計算。

二、共同購入及び販賣の、箇人購入及び販賣に對する利益の比較。

一一、氣象の問題。

大正六年八月新潟測候所の觀測によれば月平均毎日の水分蒸發量は四、八耗なりといふ、三坪の花壇から蒸發する水量を問ふ。

答二斗六升四合一勺二。

一二、土地評價に關する問題。

一反歩の小作料玄米一石を得べき土地の價格は何程にて可

なるや。

但し米一石の代價を三十圓、租税を三圓五拾錢、金利は五分利に當るやうに計算せよ。

答五百三十圓。

一三、壯丁體格検査表の計算。

聯隊區より交附の成績により各種の歩合を算出せしむ。

一四、租税の問題。

或農家の所有せる水田一町二反五畝歩あり。此水田は一反歩當り地價金四十圓なり。此人の負擔する公課を問ふ。

但し地租は、地價百圓に付き四圓五十錢、縣稅及び村稅は地租一圓に對し縣稅は六十九錢、村稅は二十一錢、水理組合費は一反歩に付き五十四錢なり。

答四十九圓五十錢。

(五)農業科

農業補習學校に於ける、農業教授の根本方針及び教材の選擇は、矢張生徒の環境から出發して研究し決定するでなければ眞實に觸れた案が出来ない。然らば吾人が此方針を決定するに就て、どんな方面を突止めて決定したかと云ふに、次の項目を基準として試みた。一、最も主力を注ぐべき學課の決定。二、改良及び獎勵すべき事項の詮索。三、生徒學習狀態の調査。四、授教時數との關係。等即ち補習學校の教育は可成生徒に直接効果ある様に取り扱ふべきものであるから、農業教育の如きも出來得るだけ此趣旨に適合するやうに教材を選擇するの要がある。そこで

第一に最も主力の注ぐべき事項は

何であるかと云ふことを調べる爲に新潟縣に於ける農産物の生産高を左に比較して見ると。

新潟縣主要農産物生産高 (大正八年度)

|        |              |                       |       |
|--------|--------------|-----------------------|-------|
| 米      | 三、〇五九、三三五石   | 一四九、一五六、七一四           | 粳糯、陸稻 |
| 雜穀     | 八、一七八、一八〇圓   | 麥、大豆、小豆、粟、蕎麥          |       |
| 芋類     | 五、〇三七、九九六圓   | 甘藷、馬鈴薯、青芋             |       |
| 蔬菜     | 五、九七五、〇九八圓   | 漬菜、大根、葱、牛蒡、胡瓜、南瓜、西瓜、茄 |       |
| 特用作物   | 八五四、八八二圓     | 菜種、大麻、葉煙草             |       |
| 果樹類    | 一、七六九、一四三圓   | 柿、桃、栗、其他              |       |
| 雜穀以下合計 | 二一、八一五、二九九圓  |                       |       |
| 總計     | 一七〇、九七二、〇一〇圓 |                       |       |

前記のやうに、本縣に於ける作物の生産高は年の豊凶により、又は價格の變動によつて消長はあるが、大正八年度の生産價格について比較して見ると、總産額一億七千萬圓中米は實に一億四千九百萬圓で、約一億五千萬圓に達してゐる。其他は雜穀以下五種の生産高を合計して

も、僅に二千百萬圓餘に過ぎない更に之が百分比を出して見れば。

米が八七、二四

其他一二七六

となる。以上の結果から歸納すると、新潟縣の農業科は大體に於て、稻作の研究が全生命であることが斷言出来る。よつて本校に於て稻作を主とする爲に、初等科第一學年から稻作を課し。高等科に於て肥料學を講ずるに際しても稻作肥料として授ける様に教科書を編纂して置いた。

又新潟縣全體からながめれば蔬菜の如きは實に問題にならない程小額の生産を擧げてゐるに過ぎないが、本校の通學區域である坂井輪村は新潟市に接近してゐる關係上、蔬菜の栽培は中々盛んである。之を内輪に見積つても三萬圓を降るまい。故に本校の農業科に於ては



蔬菜の研究は閑却することが出来ない。よつて初等科第二學年には蔬菜を課して置く。

第二獎勵及び改良すべき事項

農家は其特性として、兎角保守に傾きつゝあるは一般に認めるところである。されば作物栽培上の技術は相當に進んでゐても、品種の改良とか種子の精選、新肥料の研究と言つたやうな方面はトント御留守にしてゐるものが多い。よつて本校では之等の事項に充分の注意を拂つて教材の選擇に努めてゐる。吾人が曩に出版した蔬菜教科書及び肥料教科書等には之等の點に最も力を注いで置たつもりである。

第三生徒の學習状態から見て

農業補習學校の生徒は皆農家の子弟であるから、農業に就ては皆相當の常識を有してゐる。従つて生徒は、農業の定義、作物の意義、除草中

耕の必要と言つたやうな解り切つたことを習ふことを好まない。換言すれば農業大意を勿體らしく教ひられることを有難がらない、之は當然の歸結であつて、生徒の希望するところが補習學校の眞生命を穿つてゐるのだ。假令商工補習の夫のやうに教授せられたことが、直ちに翌日からの業務に應用されないうまでも、手つ取り早く爲になる教授を受けたいと思ふのは、あたりまいの要求である。之本校では初等科から稻作及び蔬菜を教授する所以である。

第四教授時間の關係から

補習學校は自由な教育であるから學校の組織及編制にも色々の種類あるが、一般から見ればどこでも教授時數の尠いのに困つてゐる。彼の晝間通年の補習學校の如きは低度の農學校と見るべきもので、眞の補習學校ではない、故に普通の補習學校では出来るだけ教材を精選

して教授する必要がある。一般補習學校の課程表を見ると品種改良、農業經濟の如き學課は全部後廻しになつてゐるが、成程困難な教材は高學年に至つて教授すべきは勿論であるが低學年であつても充分會得し得る材料は、假令經濟であらうが品種改良であらうが、臨機に教授して何も差支はないのである。例へば農業經濟に屬する大中小農の別一毛作に二毛作、及びチユネンの經濟圏の如きは初等科(前期)でも理解せしめ得るのである。其他品種改良病蟲害の如きも、適當の處で取扱ひの出来ることは教ひて行つてよい。

兎角農業科のやうな學科になると農業分科の順序等によつて教ひやうとする嫌あるが、之等は大に注意すべき點である。今新潟縣訓令の學科課程表と本校の課程表とを比較すれば次の通りである。

農業科配當表

| 學級 | 科別    | 一 初等科           |          |                     | 二 高等科      |                                   |                                      | 三 研究科 | 計 |
|----|-------|-----------------|----------|---------------------|------------|-----------------------------------|--------------------------------------|-------|---|
|    |       | 第一學年            | 第二學年     | 第一學年                | 第二學年       | 第三學年                              |                                      |       |   |
|    |       | 一七              | 二〇       | 一七                  | 一二         | 一二                                | 一五                                   | 九三    |   |
|    |       | 農業大意            | 農業大意     | 植物生理大意、作物及病蟲害、氣象、農具 | 土壤肥料、園藝、畜産 | 農業經濟、農業法規、簿記、農産製造及手工、測量、土地改良、品種改良 | 産業組合、農業經濟、調査、栽培、農家、耕地整理、副産物、副産物、町村改良 |       |   |
|    | 本校ノ科程 | 稻 麥             | 蔬 菜      | 肥 料                 | 養 畜        | 植物生理                              | 農業經濟                                 |       |   |
|    | 附加教材  | 農業大意、農具、品種改良    | 病蟲害、品種改良 | 土壤、土地改良、農業經濟        | 肥 料、農産製造   | 品種改良、氣象                           | 農産製造及手工                              |       |   |
|    | 教科書   | 補習教育、稻作教科書、附 陸稻 | 同 蔬菜教科書  | 同 肥料教科書             |            |                                   |                                      |       |   |

(六)研究科の學課

前節に於ては初等科及び高等科の學課に就て説述したが、以下研究科の學課及び其取扱ひについて述べやう。研究科とは前にも言つて置いたやうに、高等科を卒業した生徒を收容してある學級である。學課は公民、國語、農業としてあるが、別に教科書を使用しないで、其日の新鴻新聞の夕刊に就て教授してゐる。

1. 偶發教材として新聞採用の理由。

一、一回一單元主義に一致せしめること。

生徒は毎日登校するのでないから、纏まつた教科書を教授するに困難な點がある。然るに新聞によるときは、前の召集日に缺席したもので、次の日に教授を受けるにも少しも不都合がない。従つて生徒の出席もよくなる譯だ、之やがて一回の教授を一單元にする主義と一致するところとなる。

一、教材の選擇自由なること。

新鴻新聞夕刊は通常四頁あつて、二頁は雜報一頁は廣告、二頁は經濟及び氣象欄である。特別な出來事のある場合の外は、此四頁中に教授に適當な記事が大抵ある。今大正十一年四月から、七月までの一學期間、教材として指定した記事の見出しを挙げれば、次のやうである。

月 日 新聞の見出し

四月二十日

◎ けふ麗しき日光の山山

曠の賓客英儲を迎ひて

一時に咲き誇る梅櫻の花。

山色容を改めて喜色滿つ。

◎ 新潟市小學校に

研究科新設。

◎ 御別れの御挨拶は

電話で御交換、

英儲と攝政殿下が

四月二十四日

四月三十日

- ◎ 汗みどろの逓信當局が東京鹿兒島間の通話試験。
- ◎ 戸數割申告來月まで延期。
- ◎ 自作獎勵と資金の融通。
- ◎ 内地米の補充と外地米の前途  
豫期に達するや疑問  
困難なる食糧充實。

五月十四日

- ◎ 明年より着手の白根郷の耕整  
三百萬圓の經費を以て  
六千町歩を完成。
- ◎ 二十萬がらの失業者はどこへ。
- ◎ 戸數割申告者少し  
三分の一に足らず。
- ◎ 具體案なりたる  
收入證紙の利便  
新潟市會の議を経て實行
- ◎ 縣染色物の審査。

五月三十一日

六月十四日

- ◎ 内地鹽の買收價引上げ  
賣捌價格は不動。
- ◎ 免囚保護の功顯はる  
表彰されし堀小太郎氏  
新潟監獄の晴の擧式。
- ◎ 山梨縣爭議  
地主對小作間。
- ◎ 各郡市より見たる檢米數。
- ◎ 我撤兵期  
浦鹽の結氷期前に。
- ◎ 縣青年團の事業  
十一年度計畫定まる。
- ◎ 旱害前後策  
農家に指導。

六月十四日

七月一日

- ◎ 新潟中學校落成式祝辭。
- ◎ 新貨幣の鑄造。
- ◎ 爲替取扱の時間  
午後三時まで延長。

七月十四日

七月二十四日

- ◎土用入りと稲作  
作柄は良好。
- ◎加州問題と人種問題。
- ◎全廢される酒肴料  
三大節の際。
- ◎意義深き此一日  
勝敗の分岐點  
下越の選舉界。
- ◎湯田中温泉より  
高村信夫。一茶について。
- ◎縣下の青年團數  
五百三團體十二萬人
- ◎本縣の薬工品況  
北海道への輸出劇増。

一 生徒の希望に添ふこと。

教材は新しいもの程生徒に歓迎されるものであるから、此意味に於て新聞記事は最もよい。新聞の記事と、教科書の教材とを比較すると

新聞記事の方は、大部修辭が粗雑ではあるが、取扱法如何によつては、生徒に及ぼす効果は甚大である。

一、生きた經濟學の教授に適すること。

普通の人は、新聞の經濟欄をあまり注意してゐないやうだ。然し我々の實生活は全部經濟の支拂を受けてゐる以上、之を輕視する譯に行かない、處が我々は、武士は食はねど高揚枝と極めこんだ、傳統的氣分を受けてゐる爲に、兎角經濟問題を粗略にして顧みない傾きがある。教員自身はそれでよいかも知れないが、之から社會に立つて奮闘する青年には、經濟的知識を相當の程度まで授けねばならない。殊に研究科の生徒は、皆一定の年齢に達してゐるから、作物の栽培者であつて又之が販賣者である。故に常に物價の變動には、細心の注意を拂ふやうに指導する必要がある。

## 2. 新聞の取扱ひ。

新聞は新潟新聞社の好意によつて、其日の分だけは寄贈を受けてゐる。よつて自分は夕刊の出来る一時間位前に自轉車で出掛ける。新聞社の營業部で、暫くまつてゐると應て夕刊が出来る。一應目を通して、晩に教授する記事を社にゐる中に大體極める。若し教授事項中に不明の點があれば、其場に調べ、又歸りに新潟圖書館へ行つて調べて來ることなども折々にある。歸校早々生徒に讀解させる記事の見出しの上へ朱點を付けて教室へ出して置く、生徒は先に來たものから順次に新聞を一枚づつ取つて讀んでゐる。教授法として別に特筆すべき事もないが、前に朱點の附してある記事を一二回朗讀せしめて、其大意を説明し質問應答で新聞の教授は終る。

新聞記事の教授後は、次に述べる經濟の教授であるが、若し此記事中

に適當の教材のある場合には、經濟の講義を次面に廻して、記事の敷演をなすことも度々ある。例へば五月二十四日に中蒲原郡の耕地整理の記事があつたそこで直ちに耕地整理について一時間教授し。又七月一日に新貨幣の記事があつた、そこでグレシヤム法則の説明を附加する等である。

次に所謂三面記事の取扱であるが、之等に就ては臭いものに蓋をしたやうな事をせずに、解放して讀ませる。そして適當の訓言を與へて之を戒めて置く。之が却て訓育上よい結果を得られるやうだ。記事中最も困るのは如何はしい廣告である。之等は新聞を編輯する上に注意して願ひたいものである。

以上は偶發教材を新聞によつて教授してゐるのであるが、更に新聞を利用して之と平行して豫定教材、即ち具案的教材の教授を毎同一時

間づつやつてゐる。大正十一年度に豫定した教授の要目を挙げれば次のやうでわる。

3. 經濟科要目

一、米穀取引株式会社。

イ米穀取引所の組織。

ロ米穀取引所存在の社會上の價值。

ハ米穀取引狀況。

ニ米穀取引の期間。

ホ正當ならざる取引。

ヘ投機の戒むべきこと。

一、正米相場

イ定期相場と正米相場との關係。

ロ新潟在庫米と正米相場。

ハ支米相場と白米相場との關係。

ニ政府の買上米と米價。

ホ米穀の專賣問題。

一、貨幣

イ貨幣制度。

ロ日本銀行。

ハ銀相場。

以上の教授は常に新聞の經濟欄即ち相場欄を説明しつつ教授してゐる。貨幣に關することは、農家の子弟に大した必要がないやうであるが、實はさうでない毎日新聞に表れてゐる日本銀行帳尻の如きは、財界のパロメーターである。又銀相場の變動は對支貿易に至大の關係があるから。従て大豆粕等の價段に直接の影響がある。

三 教科目及教授用圖書

| 年度 | 學年組別 |   | 修身                 | 國語                     | 作文          | 算術                       | 農業                          |
|----|------|---|--------------------|------------------------|-------------|--------------------------|-----------------------------|
|    | 甲    | 乙 |                    |                        |             |                          |                             |
| 四  | 甲    | 乙 | 教科書ヲ<br>使用セズ<br>謄寫 | 大正青年新讀本上<br>縣教育會編 二十五錢 | 教科書<br>使用セズ | 農業算術教科書<br>上 興文社<br>二十五錢 | 蔬菜園藝教科書<br>肥料教科書 興文社<br>二十錢 |
|    | 同    | 下 |                    |                        |             |                          |                             |

| 七              |                |                   | 六                     |                  |                |                  | 五                     |          |                         |
|----------------|----------------|-------------------|-----------------------|------------------|----------------|------------------|-----------------------|----------|-------------------------|
| 第三學年           | 第二學年           | 第一學年              | 第三學年<br>甲             | 第三學年<br>乙        | 第二學年           | 第一學年             | 甲                     | 乙        | 丙                       |
| 前              | 同              | 同                 | 前                     |                  |                |                  | 前                     |          |                         |
| 同              | 同              | 大正青年新讀本初程度<br>三十錢 | 日本外史<br>三、四、五         | 同<br>高程度<br>二十七錢 | 同<br>下<br>二十七錢 | 大正青年新讀本上<br>二十七錢 | 日本外史<br>一、二           | 大正青年新讀本下 | 實業新日本讀本一<br>六冊館<br>二十三錢 |
| 前              | 同              | 前                 | 前                     |                  |                |                  | 前                     |          |                         |
| 同              | 同              | 同                 | 同                     |                  |                |                  | 教科書使用セズ               |          |                         |
| 同              | 同              | 同                 | 同                     |                  |                |                  | 普通作物教科書<br>興文社<br>二十錢 |          |                         |
| 新編<br>新編<br>廿錢 | 小學農業教科書<br>上、下 | 小學農業教科書<br>上、下    | 補習病蟲害教本<br>興文社<br>十七錢 |                  |                |                  | 小學農業教科書<br>新編<br>廿錢   |          |                         |

| 九                       |                           |                  | 八                |                    |                 |                 | 別科                |
|-------------------------|---------------------------|------------------|------------------|--------------------|-----------------|-----------------|-------------------|
| 科                       | 等                         | 高                | 科                | 等                  | 初               | 別科              |                   |
| 第三學年                    | 第二學年                      | 第一學年             | 第二學年             | 第一學年               | 第一學年            | 第一學年            |                   |
| 前                       | 同                         | 同                | 前                |                    |                 |                 | 日本外史 一、二、六、七、     |
| 大正青年新讀本<br>最高程度<br>四十五錢 | 新選補習讀本下<br>新潟縣教育會編<br>五十錢 | 同<br>高程度<br>四十五錢 | 同<br>中程度<br>四十五錢 | 大正青年新讀本初程度<br>四十五錢 | 同<br>高程度<br>卅五錢 | 同<br>中程度<br>卅五錢 | 大正青年新讀本初程度<br>卅五錢 |
| 前                       | 同                         | 前                | 前                |                    |                 |                 | 同                 |
| 同                       | 同                         | 同                | 同                |                    |                 |                 | 同                 |
| 同                       | 同                         | 同                | 同                |                    |                 |                 | 同                 |
| 肥料教科書附寫                 | 小學農業教科書<br>下              | 小學農業教科書<br>上、下   | 土壤教科書附寫          |                    |                 |                 | 養畜教科書附寫           |





日本外史

興文社發行

農業算術教科書 上

蔬菜園藝教科書

訂再肥料教科書

補習病蟲害教科書

覺張書店發行

補習稻作教科書

補習蔬菜教科書

補習肥料教科書

#### 四 各教科と生徒の學習狀態

##### 1. 修身及び公民科

此教科は割合に興味を以て學習する。之此科の教授には生きた例話を主として授けるやうにしてゐるからである。又例話のないときは、直接彼等の行住坐臥に對して其行動を指導することとなるから倦怠を催さないのだ。

##### 國語

生徒の最も熱心なる學課は、怎しても國語即ち讀方である。そして今日のやうに、學級組織が整然と立つてしまひば見ることの出来ない現象ではあるが、初めて補習學校を開く場合には、生徒が自分の實力に比して困難なる教科書を、希望する傾向があることである。尤も非常な熱心と堅い決心とを以て程度の高い教科書を選択するのであれば、實に賞揚に價することであるが、實際はさうでない。此傾向は獨本校の生徒だけでなく、各地の實例に徴するも開設當時の生徒の傾向は皆

其規を一にしてゐるやうである。扱自己の實力以上の難解の教科書を選ぶと云ふは、其間に如何なる理由が胚胎してゐるかと云ふに、生徒が相當の年齢に達してゐると云ふことと、父兄並に一般社會はまだ教科書の難易によりて生徒の學習の價值を定める如き傾向あるによつて、何時迄も子供らしい教科書を好まないのだ。殊に初學年の生徒は一層國語を熱心に勉強する。之農業補習學校の生徒として聊か脱線せる趨勢のやうに見えるが、一步彼等の思想に立入つて詮索するとき、決して脱線でも不眞面目でもない事が解る。實際何をすることも讀書の力が先きて之が動かぬ間は萬事窮すであるからである。それは試験をやつて見るとよく解る。大抵の生徒の成績は皆讀書力と比例してゐる。農業科を熱心に勉強する生徒も、いざ答案となると國語の力のあるものには一般に及ばない。試験の際に於ける答案は暫く別

としても、國語力の乏しいものは實際の記憶も不正確を免れないやうだ。だから生徒が國語に熱心になるのは自然の勢である。

### 3. 算術

算術は補習學校に於ては重要な位置を占めてゐる學科であるが、生徒があまり氣乗りのしないのは實に閉口してゐる。其よつて來るところの原因は、色々あるであらうが、主なる原因は、教授の時間が夜間である關係である。倫敦市の教育部長バートブレリア卿が言つたことがある。「晝間の労働長時間の爲に疲れ果てたるものに夜間教育を施すは其効果自ら明なり」と補習教育の能率のあがらないのは全く此爲であるが、特に算術のやうな思考學科は特にさうである。故に將來は補習教育の爲に是非共、青年の労働時間を制限し補習教育を受くべき特定の日、及び時間を與ひ、其教授は晝間に行うことにしたのである

教師生徒共に一定の業務を終りたる後、更に補習學校の仕事に取かゝる如きは、補習教育を振興せしめる所以でない。

#### 4. 農業

農業は不熱心と言ふ程ではないが、農業補習學校の生徒としてはまだ物足りない感じがする。尤も學年の進むに従つて漸次學習態度が熱心になつて来る。殊に研究科の生徒或は丁年以上、若くは一家の戸主が農業の時間だけ適當なる學年に出席して教授を受けてゐるような熱心な者もあるが、初學科(前期)及び高等科(後期)の前半のあたりは怎も思つた程熱心でない。之は生徒の無自覺にもよるであらうが最大原因は家庭及び農業其物の性質が然らしめるのである。

今日一般の農家の狀況を見ると、農業の經營並に方針を定めるものも、亦收支計算をするものも、皆主人一個の裁量で家族は單に忠實なる

労働者に過ぎないと云ふ關係があるからである。今一つは工業の補習學校のように、技術が熟達したからと云ふて、直ちに賃銀其他の待遇を増すと云ふ譯に行かないからである。殊に商工業の夫のように今日習つた學課を明日から、實施の業務に應用して直ちに効果の顯れるような學課でないからである。即ち農業の効果は少くとも、數ヶ月乃至は數年の後にあらざれば、結果を見ることが出来ない職業であるから止むを得ない。其他二男以下の身分のものになると、將來自分の向ふところの職業が、若し農業でない場合、又は方針の定まらない時期等に於ては、假令現在は農業に従事してゐても、此科に全幅の努力を拂はないのは自然の結果である。

### 五 農業教授に對する二つの失敗

開校當初農業科に何を採用してよいかは、非常に迷つたが結極、自己一箇の考ひで、蔬菜と肥料とをやることに極めた。此蔬菜は師範の石井教諭が担任し肥料は自分で教授したが、此肥料には實際困つた。然し自分が以上二科を選定したのは大に根據あるつもりでやつたのだ。何となれば、修業年限一箇年と云ふ振り出して、學校を初めたのだから、此處一箇年中に、最も有効にして且つ意義ある農業科目としては、怎しても此地方としては蔬菜と肥料とを選ばざるを得ないのだ。當地は新潟市に接續してゐる村落である爲に、蔬菜の栽培は中々盛んであるから、更に一步を進めたいと云ふ意味で之を學課に加ひたのである。處が蔬菜は豫定通りの効果を收めることが出来たのに、何故に肥料に於て失敗したのかと云ふと、それは生徒の希望に添はないと云ふよりは寧ろ肥料を學習する迄に生徒の農業常識が進んでゐなかつたのだ。

自分が其三月まで新發田農學校にゐて、農家を相手にしてゐた考へを、直ちに持つて來て二十歳以下の青年に、しかも農學に全く觸れたことのない補習學校生徒に當てはめやうとしたのだから、其處に無理があつた譯である。然らば本校の生徒は肥料と言ふ學課を嫌ふのかと云ふと、さうではない。昨年的高等科の生徒に又肥料をやつて見たが中々熱心に學習した。之既に農業に關する一般の知識が出来てゐる爲めに、充分興味を以て迎ひられたからである。

今一つは土壤を課したときの失敗である。大正八年度に之を課して見たが、甚だ振はなかつた。由來教材に活動性を缺いてゐる教材は専門家の研究は別として、特に此種の學校にては考ひ物である。故に補習學校等で單獨に土壤學を教へるやうなことは、可成之を避けて、作物栽培の條下、及び肥料に附帶して教授する様に教材を排列すべきで

ある。

## 六 體 育

生徒の體育中體操としては修養團でやつてゐる國民體操を採用してゐる。此體操は夏冬共に全く裸體となつてやらせるが、中々熱心になつてやる。國民體操のことに就ては後章修養會の條下に詳説する豫定であるから、此處には其大要に止めて置く。外に擊劍相撲などもやらせてゐる。青年は毎日營々として勞働してゐるから、相當からだが疲れてゐるにも係らず、休日及び始業前には盛んに運動してゐる。一般から言ひば運動を盛んにやるものが成績も上位を占めてゐる。次に擊劍をやるものと相撲を好むものとの腦力の對照であるが、概して擊劍を好むものは學業の成績が優秀で、相撲を好むものは其下位に

位する傾向がある。

## 七 教授の季節教授時數及び休業日

本校は通年制によつてゐるけれども、四月から十一月までの間は相當産業期休業を設けて置く。又其季節及び時期は學年の進むに従つて夫々異なる取扱をしてゐる。

### (一) 初等科及び高等科

初等科(前期)は四月から十一月十五日までは、毎日午後七時半から八時半まで、一時間づつ教授をなし。十一月十五日から翌年三月末日までは、午後七時から九時まで毎夜二時間宛教授してゐる。

高等科(後期)は四月から十一月までは毎月十四日、二十四日、三十日(乃至三十一日)の三日間學校へ來ることにして置く。然し十一月十五日

から翌年三月末日までは、初等科と同様、毎夜二時間宛教授してゐる。尙詳細は卷末の規則に擧げて置いた。其他新しき試みとして、二月中に二十日間晝間教授を試みて見たが相當効果を收めることが出来た。元來當地方は新年の御祝を一月にせず、一ヶ月遅れの二月に皆御正月の祝をしてゐる。此理由は北國のやうに雪のある地方では、其年の野外の仕事を全部整理して小作人は小作料の完納を了し、一ケ年の總勘定をして、落付いて正月の祝をするには怎しても二月にならないと出来兼ねる。そして此二月は其大半は休みである。よつて此休日を利用して晝間教授をやつて見た。午後二時から五時まで正味三時間宛二十日やるのだから此月一ヶ月で六十時間やれる譯だ。夜間教授に比して教授の能率もあがり、教授の準備もよく行届き、殊に職員は大に其勞を軽減せられたので皆喜こんだ。將來は何とか研究して全部

晝間教授にしたい希望をもつてゐる。

### (二)研究科

研究科は一ケ年を通じて毎月三回乃至四回登校することにしてゐる。其他研究科に關する事項を詳説すれば次のやうである。

#### 一、研究科の年齢

本校は初等科二ケ年、高等科三ケ年、都合五ケ年修業したものには、卒業證書を與へることにしてゐることは前にも説明して置いた通りだが、然し尋常小學校を卒業して五ケ年たつた處がまだ十七八歳の青年である。丁年までは少くとも二三年はある。此間は青年として最も指導を要する時期であつて、又教ひ甲斐のある年輩である。故に此間の生徒を收容して教養を繼續してゐる。研究科と稱するのは即ち此生徒である。研究科は丁年までとして置くけれども、丁年以上のもの

でも此處に籍を置いて研究したいと言ふ希望の者があれば、勿論歓迎してゐるが、現在では丁年以上の生徒はゐない。但し其年軍隊に入營するものは必ず來てゐる。本年から入營期が翌年一月にまはされたから其關係で、研究科の年限も幾分延長せられた勘定となつた。

二、研究科の召集

研究科の登校する日數は現在は四十一日と極めて置く。此中に毎月一回づつの修養會があるから、實際教授を受ける日數は二十九日、時間は五十八時間になる。尤も此外に登校の都度體操をやらせるから、體操の時間を加ふれば丁度九十時間になる割合である。尙各月に於ける登校の日は次表の通りであるが、此日は毎月の公休日の前夜と修養會の當日である。修養會のことは後章に述べてをく外附録高山會のところにて詳述して置いた。

| 月次 | 召集日  | 召集    | 日     | 計  |
|----|------|-------|-------|----|
| 四  | 〇八日  | 十日    | 二十四日  | 四  |
| 五  | 十四日  | 〇二十一日 | 二十四日  | 四  |
| 六  | 十四日  | 二十四日  | 〇二十七日 | 四  |
| 七  | 十四日  | 〇二十三日 | 二十四日  | 四  |
| 八  | 〇十六日 | 二十四日  | 三十一日  | 三  |
| 九  | 〇十三日 | 二十四日  | 三十一日  | 三  |
| 一〇 | 十四日  | 二十四日  | 〇二十七日 | 四  |
| 一一 | 〇三日  | 十四日   | 二十四日  | 三  |
| 一二 | 〇十四日 | 二十四日  | 二十四日  | 二  |
| 一  | 〇三日  | 十四日   | 二十四日  | 三  |
| 二  | 七日   | 十四日   | 〇二十一日 | 四  |
| 三  | 十四日  | 二十日   | 〇二十七日 | 三  |
| 計  |      |       |       | 四一 |

次に公休日のことについて、一言附加して置きたいことは、自分が此地に赴任した當時は大学の休日が一定してゐなかつた。元來農閑を



利用して教育する補習學校の經營に此休日が一定してゐないと、何事をやるにも不都合の點が多い。學校の教授が夜間であるから晝間の休日には何等關係がないやうに見えるけれども、實際其他晝間に召集する必要のあることが随分多いから、怎しても此休日を一定に極める必要がある。そこでいろ／＼と村當局と折衝を重ね、數年の後漸く其日を一定することが出來た。其公休日と言ふのは毎月一日、十五日、二十五日の三日間である。

## 八 補習教育と各期休業

農業補習學校の教育が全部専任の教員でもつて教授することが出来るやうな、理想的の時代が到來すれば小學校の冬季休業のことは問題外となるけれども、現在のやうに教員の大部分否、殆んど全部が小學

教員の兼務で補習學校を經營してゐる時代に於ては、此問題は極めて眞面目に研究する必要がある。吾人は嘗て此問題即ち小學校の冬期休業の變更問題を、或校長會議に提出したことがあつたけれども、虚勢と體裁と上司の思惑のみを考へてゐる會議では時代遅れの愚論として遂に研究せられずにしたつたことがある。

現行の本縣小學校規則にある冬季休業は十二月二十六日から一月七日迄である此十三日間は果して我新潟縣否斯る規則により休業してゐる東北の地方としては、果して必要適切な休業であらうか、之を新潟縣の實例に徴するに本縣では新潟市、長岡市初め其他小數の都市だけは、成程新年であり、正月氣分であるかも知れないが、大部分の縣下の農村は新年どころか、全く年の暮れで師走氣分でいろ／＼してゐるべきである。即ち小作米の納付、半ヶ年の總勘定、正月の準備といふ時で

ある。故に此十三日間は本縣の事情からすれば、實に無意味の休業である。然るに規則であるから小學校は休業になる。小學校が休業になれば従つて先生も無論休業となる。之が補習教育に非常に障害をなすのである。ナニ冬季休業に休んだからといふて別に差支はない其後うんとやりさいすれば不都合はないといふ論者もあるかも知れないが、實際農家の事情及び青年の境遇等に深く立入つて調査して見ると、さう簡單に行くものでない。何となれば、一ヶ月遅れの正月は二月一日からであるから、一月の二十七八日頃には皆餅搗をやる。續いて一月三十一日は年夜だ、一日が元日で二日三日は眞の御正月である次に青年は新年の總會とか親族の廻禮とか、或は新年の來客に對する接待とか随分正月は青年にも夫相當の任務がある。そこで現在のまゝにして置いたならば打込んで、補習教育をなし得る日數が果して幾

日あるか。

識者は十一月十五日頃からそろそろ夜學の開始が出来るやうに御考へになつてゐるが、本縣否東北地方は一般に雪が降れば野外の仕事は萬事窮すであるから、降雪前に一切の仕事を片付けてしまはねばならぬ。其降雪は年によつて異なるは言ふ迄もないが、新潟測候所の初雪の平均は十一月二十九日となつてゐる。従つて本縣一般の補習學校は十二月一日頃から始めるものと見てよい。處が始まつたばかりの補習學校が、十二月二十六日から一月七日まで冬季休業で腰を折り一月に這入つてからは月末になると餅搗が始まる。年の暮れの雜務が出て来る。二月になると御正月で其初めは事實上補習教育が出来ない。三月十日頃になると農耕の準備に取りかかると云ふ状態であるから、青年も教師も殆ど心を落ち付けて補習教育といふことに専念

になる時季がない。よつて本校では止むを得ず冬季休業は、二回に分けてやつてゐる。其第一回は、十二月三十一日から三日まで、第二回は一月二十七日から二月三日まで、十日間休業してゐる。然し此方法でやると補習學校のみの爲に、小學校の冬季の休暇中兼務の教員を拘束することとなるので、誠に情に於て忍びない點である。故に之が解決方法としては法令を改正するにある。即ち冬季休業は法令の定めたる期間内に於て郡市長の認可を以て休業出来るやうにしたい。

## 第五 就學出席

補習學校の經營上最も頭をなやます問題は、此就學出席に關する件である。此種の學校が若し小學校のそののやうに、完全なる義務教育

であれば、之が督勵は法令がやつてくれるから、學校職員の手は大に省けて、専心教材の研究内容の充實等の爲に傾注することが出来るけれども、遺憾ながら現在我國には未だ之が實施されてゐないから、止むを得ず此仕事までも教職員の努力に待たなければならぬ状態である。本校は大正四年創立當時、三十五人の入學者があつたことは前にも記載して置いたが、第一年目の大正四年は割合に出席がよくて、第二年目の大正五年は最も不良であつたが、第三年目からは漸次良好に向ひ、大正七年からは殆んど就學出席に對し獎勵する必要がなくなつた。今左に之が曲折を詳述して識者の參考に供したい。

### 一 出席と月

一ヶ年中概して出席の良好であつたのは四月、七月、一月、二月を最も

不良の月は五月と十一月である。之通年の補習學校としては吐むを得ない缺席である。何となれば農閑期はめつきり出席がよくて、農繁期になると缺席が多いからである、只七月は農閑期と云ふことの出来ない月だが毎年出席の良好なのは如何なる原因であるかを調査して見たことがあるが、此月は農家の仕事の大部分が水田の除草であるから、仕事は別に樂といふ程ではないが、毎日の労働が平均に行はれてゐる關係上登校の妨げとなる事故がない爲である。

## 二 情勢と缺席

情勢と云ふよりは寧ろ人心の倦怠と言ひたい。創立當時は縣立の補習學校といふ呼聲で、しかも新しい職員で組織せられた譯であるから青年は調子に乗つて入學した。それで第一年目は案外よい出席歩

合を示した。處が二年目になつても職員の顔觸れは同様であり、只前年より幾分生徒數が増して各自の學習する教科書が一級上位のものを手にしたに過ぎない。其他は前年と同じことを繰り返すのである。一方父兄も生徒もまだ本校の價値を認めるまでに行かない。又事實一ヶ年位補習教育をやつたからと云ふて、どれ程青年が革新される譯もなく、農家の職業に反響を與へて農事改良上のヒントを與へることも出来ない。さればといふて學校の事業に疑をさしはさむといふやうな意味でもないが、開設當時の氣分がだん／＼薄らいで來た。之が漸次缺席數を増加し來る、恐るべき原因であつた。

緊○禪○一○番○の○奮○闘

何れの學校によらず、生徒がなくなつてしまへばそれが終焉である。大正五年の十一月から十二月に亘つての生徒の缺席振りは實に本校

存亡の別れるところであつた。當時自分は毎日生徒の登校する前に教務室へ行つて生徒が教室の階段を昇る音に一々注意してゐたが、相變らず其數は少ない。甚しい日になると五十五名の在籍中僅に十名内外に止まることもあつた。教室に溢れる程の在籍がほんの洋燈の數位、彼所に一人、此所に一人しか來てゐない、受持の訓導はあまり出席が少ないが、臨時休業にしては如何ですかと言つたことが屢々あつた。此時自分はいや／＼假令一人でも生徒のゐる間は休業にすることはならない。必ず教師の豫定通り嚴格に、しかも熱心に教授を施して貰ひたいと言つたことがある。恚んな非常の場合には、教科の進度とか缺席の爲に起る教材連絡の不都合などを論じてゐられるものでない。全く生徒と教員の根氣比べである。此際若しポツポツ臨時休業をしたならば、本校はあのとかが最後であつたのだ。恚ふいふ時は教員の

努力にまつより外に方法はない。若し生徒が折角出席しても教授が御座なりに過したり、休業したりすると、だん／＼生徒の缺席が増加して來る。之に反して何程缺席が多くとも教師が火の出る様な熱心で、缺席の尠ないことなど眼中に置かずにやつてゐると、出席した生徒に不満がない。こんなときに缺席してゐる多くの生徒は、所謂日和見の缺席であるから、出席した生徒に對し昨晩は怎うであつたかと聞く？……それではおれも出席しようかといふ工合に、一人殖え二人殖えして、遂に大勢を盛り返すことが出来る之が人心集攬の機微である。

### 三 實習の問題から九名の退學

之も初年の一問題であつた。折角驅り集めた生徒が、一度に九名も連袂退學をしたのだから開校當初の問題としては實に容易ならざる

出来事であつた。初め實習は水曜日と土曜日との午後召集し二時間  
學課の教授をした後に、實習をさせることにした。此方法は見事失敗し  
た。其原因は全く自分が悪かつたのだ。何となれば毎日營々として働  
いてゐる農家の子弟、言ひ換ひれば大切なる労働者である。之を何曜  
日何曜日に學校へ來いと言ふことは無理の要求である。そこで此要  
求を取消して五月の初からは休日に適宜召集して實習をさせること  
にした。そこで休日の前夜明日は何々の仕事であるから何時頃學校  
へ來る様にと宣告して置いても中々生徒が來ない。何回言つても同  
様である。よつて止むを得ず生徒と強硬談判を開いた時は大正四年  
五月二十七日の晩であつた。佐々木訓導の作文の時間が終ると教室  
へ行つて自分から次のことを申し渡した。「本校は諸君もよく承知し  
てゐるやうに、農業の補習學校であるから是非實習を課さねばならな

い。然し諸君は毎日力一杯に労働して居るのだから其家庭労働の時  
間を割いて學校の實習に來いと言ふ譯ではないが、一ヶ月に三日の公  
休日の外四日に半日づつの休日がある。此休日の度毎に來て學校の  
實習をさせると言ふ譯でもない。又學校の實習は諸君の家庭に於け  
る労働とは違つて頗る輕易な仕事である。其仕事を一時間か一時間  
半やらせるに過ぎない。だから一週間に一度位は可能であらう。ど  
うか是非來るやうにして貰へたい」と言ふけれども中々來ると言は  
ない。「それではウント讓歩して一ヶ月に二回位來るやうにしなさい」  
と言つたら中に「一ヶ月一度でも來られませんか」と言つた生徒がある。  
處が皆之に賛成した。さあ慙ふなつては問題は行き詰まつてしまつ  
た。そこで自分は「ヨシそれでは仕方がない、そうなれば此學校の創立  
趣旨に反することになるから、自分一箇の考ひでは決定し兼ねる明日

本校（師範學校）行つて江口校長の意見を承はつて來て最後の斷案を下さう。」と言つて別れた。其晩歸つて寢に就いてから色々考ひたが名案も出ない。さうかと言つて此問題を校長のところへ持つて行つたからと云つても何も校長に成案がある筈でもなからう。然し兎に角校長と相談する必要はあらうと思つて其晩はうと／＼夜を明した朝師範學校へ行く仕度をして學校を出たら丁度其日は休日のものであり、且つ自分の師範行きを慥める爲めか、前の橋の上に實習反對の主謀とも云ふべき連中がぞろつと並んで見て居た。そして「ホラ校長と相談に行くテア」と言つて囁いてゐる。自分は道々考へた、校長と相談してもせんでも結果は同じことだ、餘計な心配を校長にさせるだけが詰らないと思つて、新潟の古町まで行つて歸つて來た。

青年はまだ見てゐる。其晩は平素よりも出席がよい。正規の教授

が終つてから。

「今日江口校長と昨夜の問題に就いて相談したが、校長の考も自分と同様である。『學校の目的に全く反する様な生徒は遠慮なしに退學させろ』と申付けられた、依つて諸君は今晚よく考へて所決しなさい」と云ふて別れた、さうは言つて別れたもののマサカそれなら退學するとはでは行くまいと一縷の望を抱えてゐた。處へ翌朝小學校生徒に托して續々退學願が出て來る。見ると何れも皆有望な青年ばかりである其時退學を申出たものが九名あつた。

四月の初め手を盡して漸く入學させた三十五名の生徒を僅か一ヶ月後主腦者と目すべき生徒九名を失ふといふことは、自分としては實に肉をさかる思がした。然し全部受理して翌日から二十六名の在籍で教授を繼續した。處が妙なもので月日の立つに従ひ、先きに退

學した生徒がポツポツ復校を願つて來る。前否を悔いての願出であるから喜こんで皆許可した。其年の十二月には全部復校した外に未だ入學しなかつた六名の生徒までも新に入學した爲に、一月末には四十一名の在籍となつた。此時の愉快は其局にあつたものでなければ味ふことが出來ない。

#### 四 就學及び出席の獎勵

前節に説明したやうの事は、大正四五六年度位までは幾分あつたが大正七年度からは就學出席に關しては何等獎勵及び督促を加ふる必要はなくなつた。けれども本校創立當時設けた獎勵機關を左に述べやう。

就學に就いては其初め大に獎勵を試みたが、以後は其必要がなくなつた。然し二三年間は出席の獎勵だけは折々やつた、此出席の獎勵を學校職員が陣頭に立つてやるのでは甚だまずいし、又効果も薄いやうだから、青年幹部の間から適當な獎勵委員を設けた。之を獎學係と稱してゐる。此獎學係の人選は青年會長に依託し、會長の推選せるものを學校長より委嘱するといふ形式をとつた。

#### 獎學係に關する内規

- 一、本校通學區域内ニ五名以下ノ獎學係ヲ置ク。
- 二、獎學係ハ各青年會長ノ薦選セルモノニ對シテ學校長之ヲ委嘱ス。
- 三、獎學係ハ本校ニ於ケル各種會合ニ出席スルモノトス。
- 四、獎學係ハ左記ノ件ニ付キ學校長ノ諮問ニ答ヘ且ツ意見ヲ述ブルモノトス
  - A 就學並ニ出席督促ニ關スルコト。
  - 但シ本校ヨリハ毎月一定ノ様式ニヨリ其月ノ教授日數及ビ獎學係ノ受持區内ノ生徒ノ出缺席數ヲ通告ス。
  - B 農業獎勵事項ニ關スルコト。
  - C 生徒ノ訓練ニ關スルコト。



D 學校ト青年會トノ連絡ニ關スルコト。  
五、獎學係ノ任期ハ二ケ年トス。

## 第六訓 練

### 一 訓練と修養會の趣旨

教育と云ふ限りは何れの種類たるを問はず、德育を基礎とし目標として進むでなければ教育の効果が有効に表れて來ない。否有効の結果をもたらさないばかりでなく。道德的陶冶に手の抜かれた教育、即ち知育にのみ偏した教育は、遂に蛇の呑む水毒になるの憂ふべき結果に終るのである。

二宮翁は「我道は人心の荒蕪を開くを以て本旨とす心の荒蕪一たび開くるときは地の荒蕪は何萬町歩あるも憂ふるに足らざるなり」と。

故に本校では青年の精神的修養に最も重きを置いてあるのである。本校は他の寄宿舎制度の學校若くは、學業其物が本務の學校と異なり生徒が片手間に學習する學校であるから、生徒の精神界を支配するものは學校にあらずして、其環境である家庭、大字及び青年會にあるのである。處が青年會は表面立派な修養機關であるが、遺憾ながら今の青年會は青年を投げだして托するだけの内容を具備して居らない。そこで青年の修養のことまでも全部學校で世話して教育最終の目的を達する爲に努力せざるを得ないのである。

尤も生徒の修養の爲には毎週修身及び公民の講義はしてあるが、之ではまだ事足りない。怎しても大なる背景の下に青年を置いて、修養せしめる必要がある。之本校に修養會を組織せる所以である。

本校でやる修養會は、單に學校で定めた修養項目によつて行ふだけ

では甚だ力のない會合になつてしまふ。従つて生徒日常の行爲を支配するにあまりに基礎が薄弱である。故に本校の修養會は我國修養團の主義綱領を其のまゝ移して學校の修養會に宛てはめたのである。故に修養團の一事業とも見ることが出来るのである。

## 二 體操と訓練

體操は學科課程の形式方面より見れば單に身體の健全を期するにあるが、只四肢五體を教師の命によりて左右するばかりでは眞に體育の効果を收めることが出来ない。即ち體操は揮身の勇氣と最善の努力が表れた結晶の動作でなければならぬ。されば此要求を充す爲に修養團で實施してゐるところの國民體操を採用し、之に靜座を加へて精神の修養と體育の效果とを同時に體得せしめんとするのである。

## 三 本校の訓練と信仰

教育を宗教外に置くは、學制に於て明示せるところである。此訓令の意味は、宗教的儀式及び宗派の宣傳に教育事業を悪用することを防止する爲に發布せられたものであらうと思ふ。決して各人の信仰に立入りて自由を束縛するものではあるまい。そこで本校では敢て佛敎を教ひる譯でもない。又キリスト敎を強ふる譯でもないが、生徒に可成神佛に對し敬虔の念を捧げ、信仰を得させる様に努めてゐる。何んとなれば忠君と云へ、愛國と云へ、父母に孝にと云へ、又博愛と云へ總て之等の實現は確固たる信念より湧き出た誠の結晶でなければならぬ。信仰に基を發せざる道德的行爲は、薄弱にして實行永續は甚だ困難である。故に修養會に於ける行事は勉めて生徒の心眼に觸れ、心の

奥底を開拓し、確固として抜くべからざる信念を體得せしめることに努めてゐる。之やがて實行の永續を與ふる所以である。

### 四 修養會

前項の目的を達する爲に、毎月一回偉人傑士の紀念日に於いて、修養會を行ふ。修養團では明治三十八年二月十一日、修養團が初めて東京青山師範學校で孤々の聲を擧げた日を向上日と稱して、會を開いてゐるけれども、青年を指導するには模範人物の紀念日の方が却つて感化を及ぼすに都合がよいから、特に本校では向上日に會を開かず、外の日をとつたのだ。

修養曆は次表の通りである。

### 修養曆

| 修養會日   | 會名  | 由來      |
|--------|-----|---------|
| 一月三日   | 信淵會 | 佐藤信淵誕生  |
| 二月二十一日 | 謙信會 | 上杉謙信誕生  |
| 三月二十七日 | 軍神會 | 廣瀨中佐戰死  |
| 四月八日   | 誕佛會 | 釋迦誕生    |
| 五月二十一日 | 楠公會 | 楠正成戰死   |
| 六月二十七日 | 高山會 | 高山彦九郎切腹 |
| 七月二十三日 | 報德會 | 二宮金次郎誕生 |
| 八月十六日  | 河井會 | 河井繼之助病死 |
| 九月十三日  | 乃木會 | 乃木大將殉死  |
| 十月二十七日 | 松陰會 | 吉田松陰死ス  |
| 十一月三日  | 明治會 | 明治天皇御降誕 |
| 十二月十四日 | 義士會 | 義士ノ打入   |

### 五 貯金

貯金の効果は改めて縷述する必要もない程に明なる事實であるが

殊に青年の貯金は經濟上の資本の蓄積といふやうな單純の效果ばかりでなく、之により常に緊張した心持と着實なる氣風を作る處に却て偉大の價値を認めるのである。月に五十錢や六十錢の金を五六年間積んで見たところで現今の金の購買力から見れば、實にいささかの額ではあるが、貯金を繼續してやると云ふところに各種の修養が實行せられることとなるのである。

(一)預金

- 一、生徒は毎月二十錢以上貯金をなすこと。
- 一、貯金は収入の多き月は多額の貯金をなし、然らざる月は小額にて可なるも、一ヶ年を通じて二圓四十錢を降らざること。
- 一、預金は學校にて取まとめ郵便貯金となす。
- 一、預金は豫め交附せられたる貯金袋に入れ、月次表下に金額を記入して提出すること。

- 一、預金者は貯金を納入すると同時に教室に貼付してある毎月の貯金一覽表の各氏名下に金額を記入すべし。
- 一、貯金は毎月末に納入すべし。
- 一、通帳は學校にて保管すれども毎月一回本人及び父兄に關覽せしむるものとす。

(二)拂戻

- 一、他町村に移住するものは、通帳を交附するか若くは全部の拂戻をなす。
- 一、貯金は適齡に達れば拂戻をなすことを得れども、可成貯金を繼續すべし。此場合には住所及び印鑑の訂正をなして通帳を本人に交附す。

一、生徒及び其家族に特別の事件生じたるときは、何時にても拂戻をなすことを得。

一、貯金に關する件は田園に之を報告す。

## 六 修養團との關係

本校高等科の生徒は可成修養團に入團することを奨勵してゐる。現在は團員三十名程ある。又職員は全部團員である。自分は大正九年十二月静岡縣沼津在靜浦の學習院寄宿舎に於ける修養團の講習に出席し。石井教諭は大正十年八月巖手縣十和田湖畔に於ける講習に出席して、共に修養團の精神を體得して來たつもりである。

口に修養を説き敬神を論ずるも、之を自ら行ふにあらざれば、單に表面の裝飾に過ぎないばかりでなく、却て人を欺くこととなる。賣名の

爲にする修養は人を動かす力がない、此所に怎しても我々職員の修養を必要とする。つらく／＼自分の前半世を回顧するときは青年の師表となつて修養を説く資格のないことを心から恥づる次第である。此資格のない凡人が月に一回位の修養會で修養行事をやつた處で何程の感化も及ぼさない筈だ。さればといつて俄に騒ぎ立てたところで仕方がない。依つて過去は追ふべからずと斷念し爾來心身の修養に勉めてゐる。

そこで吾人の修養の一つとして、毎朝住宅に奉安の神前に額づいて伊勢大廟と宮城に對し奉つて禮拜をすることである。

禮拜が濟んでから「心の力」を一章朗誦する。我々の如き俸給生活をしてゐるものは、遍々として浮華の如く其居を轉ずる爲に、家風といふことをつくるに困難である。従つて家族同志が我儘になる、よつて自

己の修養の爲にも亦家庭の空氣を清淨にする爲にも是非神前に頼づくだけでも實行して家庭の中心生命を見出すことが必要である。

## 第七 實習

### 一 實習地

實習地は總計二反五畝歩あつて内水田一反五畝畑一反歩ある。水田一反五畝は次のやうに區分してある。

- 苗代 一畝歩 共同區
- 試験田四畝歩 研究科担当
- 採種田一反歩 高等科担当
- 畑一反歩の區分は次のやうにしてある。

- 苗圃 一畝歩 共同區
- 担当圃五畝歩 初等科担当
- 試験圃四畝歩 共同區

### 二 實習の方法

實習は農家の休日を利用し隨時登校して實習するやうにして置く例へば一作物に就て實習せしむる必要あるときは、前夜普通の教授の終了した後、明日は何々の實習であるから登校せよと命じて置く。生徒が全部登校すると自分は畑に出て實習の方法を説明してやらせる。

其他除草、中耕追肥のやうな仕事は、一定の期間を限つて其作業を完了するやうに注意して置く。此實習を特に指定實習といつて置く。

指定實習に就て特に注意を要することは、生徒が指定以外に肥料を多用することである。

大正五年に第二學年の生徒に南瓜の栽培をさせたとき、追肥は一回と極めて置いたに關らず、竊かに三回掛けたものがあつた。此南瓜は何程摘心しても人工交種をやつても、皆落果して甚しき不結果を招いだ。同じ失敗であるが大正十年本科第二學年の生徒に陸稻を担当させてあつたが、之も同じに肥料は一回として置いたものを六人ばかり二回やつたので、其生徒の担当だけは、全部倒伏してしまつた。之等は餘程注意しないと生徒は無暗に追肥を多用したがるものである。然し此失敗は、何れも追肥の回数及び施肥量の作物栽培に大切なることを偶然にも實驗せしめたこととなつた。

### 三 實習教授の方針

農業補習學校の實習のことは先に實習地の面積の廣狹の條下にも一寸説明して置いたが。他の農學校の夫とは大いに趣きを異にして居る點を忘れてはならない。他の農學校の生徒は學業が本務であるから、教室で學課の教授を受けると同様に實習作業も學校にて教授せらるるにあらざれば他に實習上の經驗を得る機會がないのである。故に農學に示してある、耕種肥培の最下級の作業から練習せしめる必要があるけれども、農業補習學校の生徒は初等科第一學年の生徒を除くの外は、皆相當の農業技術に就て心理がある。従て補習學校の生徒に中耕除草等の爲に多大の勞力を消費せしめることは、不經濟である故に補習學校生徒に對する實習教授は、或作物に對し栽培上の秘訣即

ち滑を教授すれば足るのである。今實習豫定表に掲げた作物の栽培上注意すべき點を挙げれば次のやうである。

## 初等科の作物

馬鈴薯を第一學年にとりたるは、明年度即ち四月から補習學校に入學するものを調査した尋でに、實習地を決定し直ちに栽培に着手させるのであるが、其目的とするところは來學年から、補習學校生徒となるのであるとの覺悟を與ふる爲と馬鈴薯の二度作を教授せんが爲である。

體菜は栽培上別に秘訣はないが馬鈴薯收穫後麥作迄の間作としたことと、此時期に栽培した體菜は新潟市場に最も高價に販賣せられるからである。

麥を栽培せしめる目的は、由來新潟縣の農家は水稻の栽培にのみ熟

中し、殆んど麥の栽培を省みない傾向があるから、之を栽培して麥踏、土入等を教ひる豫定である。

陸稻を採つた理由は、低濕なる土地の利用を授けるのが主要なる目的である。蒲原平原には随分濕潤の畑地が多い。其處は陸稻の栽培に適してゐるから、其栽培法を指導したいからである。本校の陸稻は毎年一反當り一石二三斗の實收である。

## 高等科の作物

南瓜は摘心即ち第一回の摘心と、孫蔓の摘心と人工交種を授けるのが主眼である。其他蔓の誘引法、施肥の滑等を授けたいのである。

菠薐草は酸性土壤に對して弱いことと、雌雄異株の作物であることと、春播秋播により品種を異にする等の點を授けたい。尙堆肥の多用を特に欲する作物なることも附加する。



玉葱(葱頭)は施肥法を初めとして土抓き莖の捻折等他の作物に比し栽培上異なる點があるからである。

甘藍は苗の選擇、假植、定植の時期及び春秋兩期の下種期等を授ける豫定である。

結球白菜は種子の選擇、多肥、間引の注意及び下種期等を教へるのである。

越瓜、甜瓜を栽培しても差支はないが、結果を見ない中に盜食せられる憂があるから、越瓜にしたのだが之は摘心を教ひるのが主である。南瓜と越瓜との摘心さへ心得ておれば他の瓜類は皆此應用で行くからである。

以上の方針の下に作られたのが次の豫定表である。

實習豫定表

初等科

| 年學 | 作物  | 面積 | 畦中  | 下種期 | 下種量 | 定植期 | 手入  | 肥                         | 料 | 收穫期 | 收穫量 |
|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|---------------------------|---|-----|-----|
| 一  | 馬鈴薯 | 二〇 | 一〇〇 | 三下  | 二貫  |     | 中耕二 | 堆肥二〇、米糠二、藥灰一、人糞尿二〇、過石〇、四  |   | 六、中 | 二五貫 |
|    | 體菜  | 二〇 | 四〇  | 八上  | 五勺  | 九、上 | 中耕二 | 堆肥三〇、人糞尿二〇、藥灰一、米糠〇、七過石〇、三 |   | 十、中 | 五〇貫 |
| 二  | 麥   | 四〇 | 二五  | 六上  | 六合  |     | 踏付三 | 堆肥六〇、人糞尿四〇、藥灰二、中耕二        |   | 六、下 | 五〇升 |
|    | 陸稻  | 四〇 | 二五  | 四中  | 四合  |     | 中耕二 | 堆肥四〇、人糞尿五〇、過石〇、六、藥灰二      |   | 十、上 | 一二升 |

高等科 (反別量)

| 年學 | 作物 | 畦中  | 下種期 | 下種量 | 定植期 | 手入       | 肥                         | 料 | 收穫期  | 收穫量 |
|----|----|-----|-----|-----|-----|----------|---------------------------|---|------|-----|
| 一  | 南瓜 | 六、尺 | 四、三 | 三合  |     | 除草、授粉、摘心 | 堆肥四〇貫、藥灰一〇、過石六、人糞尿三〇、米糠〇  |   | 一〇〇箇 | 八、上 |
|    | 蘿蔔 | 三、〇 | 九、上 | 七升  |     | 中耕       | 堆肥二〇〇、藥灰一〇、過石三、人糞尿三〇〇、石灰六 |   | 五〇貫  | 十一、 |

| 三                        |                          | 二                                  |                                    |
|--------------------------|--------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 越瓜                       | 白結菜                      | 甘藍                                 | 玉葱                                 |
| 三、四、〇〇                   | 一、二、五、七                  | 二、二、五、五                            | 二、五                                |
| 四、下                      | 八、上                      | 五、下                                | 九、上                                |
| 二合                       | 三合                       | 一合                                 | 合                                  |
|                          |                          | 七、上                                | 十一、                                |
| 摘除中心                     | 中耕                       | 中耕                                 | 中耕                                 |
| 五三二                      | 二二                       | 二二                                 | 三                                  |
| 堆肥四〇〇、<br>糞尿一〇〇、<br>米糠三〇 | 堆肥一〇〇、<br>人糞尿五〇〇、<br>過石八 | 堆肥六〇〇、<br>人糞尿三〇〇、<br>過石六、<br>米糠一〇〇 | 堆肥六〇〇、<br>人糞尿三〇〇、<br>過石八、<br>糞尿二〇〇 |
| 三〇〇〇本                    | 一五〇〇頁                    | 一五〇〇頁                              | 一五〇〇頁                              |
| 七、八                      | 十一、                      | 十一、                                | 六、下                                |

### 四 水田の實習

水田は種類試験田、肥料試験田、採種田とし、更に大正十一年度よりは鹽害田試験を加へた。鹽害田とは稲作の栽培に困難な特殊の水田である。此田は地下より食鹽が湧出する外、一酸化鐵が出るので、此地方では非常に困つてゐる。よつて本校の研究科の生徒に、該地一畝歩を担当させて、除害の方法を試験させて置くが、中々成績が舉らない。今

後二三年間引續き試験する豫定である。尙鹽害田の作業は全部共同作業としてゐる。種類試験は毎年試作してゐる。品種は本縣の優良品種並に縣の獎勵品種を栽培してゐる。今左に大正十年度の、苗代及び種類試験田の耕種梗概を左に述べやう。

#### (一) 苗代

一、面積一畝歩。

一、苗代肥料坪當。

| 肥料名         | 用 量  |
|-------------|------|
| 硫酸アンモニア     | 四五匁  |
| 過磷酸石灰       | 三〇匁  |
| 藁灰          | 二〇〇匁 |
| 一、水稻品種、十三種、 |      |

越前、岩の下、龜の下、高田早生、早坊主、大場、改良愛國、  
越中坊主、銀葉、二本三、石白、東郷、

一、下種量、

一坪當り四合、

一、四月二十七日播種、六月二日挿秧、苗代日數三十六日

(二)本田

一、面積

各種共に三坪、總面積三十九坪。

一、肥料

| 大豆 粕   | 肥料名 | 反當用量  | 反當三要素 |       |    |
|--------|-----|-------|-------|-------|----|
|        |     |       | 窒素    | 磷     | 加里 |
| 一〇、八〇〇 |     | 〇、七〇〇 | 〇、〇五〇 | 〇、二〇〇 |    |

| 堆肥      | 硫酸アンモニア | 藥灰    | 過磷酸石灰 | 計 | 反當三要素 |       |       |       |
|---------|---------|-------|-------|---|-------|-------|-------|-------|
|         |         |       |       |   | 窒素    | 磷     | 加里    |       |
| 二〇〇、〇〇〇 | 一、五〇〇   | 七、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |   | 一、〇〇〇 | 〇、三〇〇 | 〇、六〇〇 |       |
|         |         |       |       |   | 二、〇〇〇 | 一、四〇〇 | 〇、一四〇 | 〇、三〇〇 |
|         |         |       |       |   |       | 〇、六〇〇 | 〇、六〇〇 | 一、五〇〇 |
|         |         |       |       |   |       | 一、四九〇 |       |       |

堆肥は積込材料より豫想して百分中窒素〇、五、磷酸〇、三加里〇、五として計算し。窒素は其半量を金肥に、他の半量は堆肥の窒素を施用した。而して三要素の割合は窒素二、磷酸加里各々一、五の割合として施用したのである。

一、除草 三回

一、生育の状況

| 品 種  | 株間 | 株一<br>数坪 | 出穂期  | 稈 長 | 芒  | 玄米及<br>當收量 | 順位 |
|------|----|----------|------|-----|----|------------|----|
| 越 前  | 八寸 | 五六       | 八月六日 | 三尺二 | 多  | 二石一四〇      | 一三 |
| 岩ノ下  | 同  | 同        | 八、六  | 三、五 | 同  | 二、一五       | 一二 |
| 龜ノ尾  | 同  | 同        | 八、八  | 三、五 | ナシ | 二、五九       | 八  |
| 高田早生 | 同  | 同        | 八、一  | 二、九 | ナシ | 二、五五       | 九  |
| 早生坊主 | 同  | 同        | 八、二  | 三、二 | 小  | 二、七八       | 一  |
| 大 場  | 同  | 同        | 八、一五 | 二、七 | ナシ | 二、七四       | 三  |
| 改良愛國 | 同  | 同        | 八、一五 | 二、八 | ナシ | 二、七五       | 二  |
| 越中坊主 | 同  | 同        | 八、一七 | 三、三 | ナシ | 二、六〇       | 七  |
| 中生高宮 | 同  | 同        | 八、二三 | 三、七 | ナシ | 二、四〇       | 一〇 |
| 銀 葉  | 同  | 同        | 八、二三 | 三、三 | ナシ | 二、二〇       | 一一 |
| 二本三  | 同  | 同        | 八、二三 | 二、八 | 多  | 二、七〇       | 五  |

|     |   |   |      |     |    |      |   |
|-----|---|---|------|-----|----|------|---|
| 石 白 | 同 | 同 | 八、二七 | 三、〇 | ナシ | 二、六五 | 六 |
| 東 郷 | 同 | 國 | 八、一八 | 二、七 | 多  | 二、七四 | 四 |

本校實習田の成績は、毎年多少の差はあるが、早生坊主、大場、改良愛國、二本三、石白、東郷の六種は何れも伯仲の間にあつて成績がよい。其他の品種は其下位に屬してゐる。一般に丈高い品種は、早生坊主を除く外は成績が悪い。上記の優良品種中特に東郷の一般に普及せしは米質非常に良好なると性強健なることによる東郷に關することは後章に詳説する。

(三)大正十一年水稻肥料試験成績

一、本試験の目的は本校水田に於て施肥料と收穫量との關係を明かにせんことを目的とし、試験を四區に別ち各區を各々一畝歩づつとした。肥料の用量は、第一區は當地一般農家の使用料に準じ、大豆粕一

枚、即ち七貫を施し、其他燐酸及び加里肥料として、藁灰及過燐酸石灰を、適宜配合して使用した。而して各區の施肥用量の割合は次のやうである。

第二區は第一區の二倍

第三は第一區の三倍、

第四區は無肥料とした。

肥料は何れも代掻きのとさ、其全量を施した。

二、各區の施肥量

第一區 一畝歩 貫單位

| 肥料名   | 施用量   | 反畫用量  | 窒素    | 燐酸    | 加里    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大豆粕   | 〇、七〇〇 | 七、〇〇〇 | 〇、四五五 | 〇、一〇五 | 〇、一四〇 |
| 藁灰    | 〇、七〇〇 | 七、〇〇〇 | —     | 〇、一四七 | 〇、三一五 |
| 過燐酸石灰 | 〇、一〇〇 | 一、〇〇〇 | —     | 〇、二〇〇 | —     |

計

〇、四五五

〇、四五二

〇、四五五

第二區 一畝歩 貫單位

| 肥料名   | 施用量   | 反畫用量   | 窒素    | 燐酸    | 加里    |
|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 大豆粕   | 一、四〇〇 | 一四、〇〇〇 | 〇、九一〇 | 〇、二一〇 | 〇、二八〇 |
| 藁灰    | 一、四〇〇 | 一四、〇〇〇 | —     | 〇、二九四 | 〇、六三〇 |
| 過燐酸石灰 | 〇、二〇〇 | 二、〇〇〇  | 〇、九一〇 | 〇、四〇〇 | —     |

第三區 一畝歩 貫單位

| 肥料名   | 施用量   | 反畫用量   | 窒素    | 燐酸    | 加里    |
|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 大豆粕   | 二、一〇〇 | 二一、〇〇〇 | 一、三六五 | 〇、三一五 | 〇、四二〇 |
| 藁灰    | 二、一〇〇 | 二一、〇〇〇 | —     | 〇、四四一 | 〇、九四五 |
| 過燐酸石灰 | 〇、三〇〇 | 三、〇〇〇  | 一、三六五 | 〇、六〇〇 | —     |

第四區 一畝歩

無肥料

三、耕種

第七 實 習

一、品種 東郷。

一、插秧 六月十四日。

一、一坪株數 六十株 一株本數二本。

一、除草 三回。

一、出穂 八月十八日。

一、收穫 十月一日。

一、生育の狀況。

本年は插秧後乾天打續き、稻の活着及び分蘖不良であつたが、七月に入り適當なる降雨と高温とをもたらし、插秧當時天候の不良から被つた、不良の狀態を快復することが出來た。殊に出穂及び成熟期に至つては、割合に乾燥高温であつた爲に、稻作の成績一般に良好であつた。されば本試験も割合に好成績を收めた。

只本試験區は前年まで普通の肥料を施して栽培した土地であるから、標準區と無肥料區との收量の差、意外に尠い結果となつた。之稻の生育中天候のよかつたことと、此土地が從來湛水地であつた爲に蓄積養分豊富であつたからであらう。

一、收穫量

| 區別 | 收量                  | 反當收量               | 順位 |
|----|---------------------|--------------------|----|
| 一  | 〇、二〇〇七 <sub>石</sub> | 二、〇〇七 <sub>石</sub> | 三  |
| 二  | 〇、二二二四              | 二、二二四              | 二  |
| 三  | 〇、二四二四              | 二、四二四              | 一  |
| 四  | 〇、一九七四              | 一、九七四              | 四  |

一、增收と肥料價格との比較(無肥料區標準)

| 區別 | 反當量   | 増價格    | 肥料價格  | 増收價格と肥料價格との差 |
|----|-------|--------|-------|--------------|
| 一  | 〇、〇三三 | 〇、八二五  | 三、一五五 | 損二、三三〇       |
| 二  | 〇、二五〇 | 六、二五〇  | 六、三一〇 | 損〇、〇六〇       |
| 三  | 〇、四五〇 | 一一、二五〇 | 九、四六五 | 益一、七八五       |
| 四  |       |        |       |              |

備考

價格の計算は、本年の米價を石二十五圓とし、肥料價格は大豆粕一枚二圓五十錢、葉灰一貫六錢五厘、過燐酸石灰一貫二十錢としての計算である。

右表によれば、第一二區共に無肥料區に比し増收量を以て肥料代を償ふときは、何れも損失を招ぎ、第三區に於て僅に一圓七十八錢五厘の利益を得た勘定である。之本校土壤の肥沃であることと、本年の天候の順潮であつた爲である。故に將來も尙肥料を多用するの

必要があるかと思ふ。

## 第八 本校施設の農業に及ぼしたる影響

### 一 水稻東郷の普及

本校通學區域は二箇の大字よりなり、内大字小針地内は坂井輪郷に屬してゐる。此耕地は北は新潟市、南は内野村に境し、西一圓は砂丘で南東は一連の西川堤防を以て限られてゐるところである。此土地は有名な湛水地で三百町歩の水田である。古來水稻の栽培が甘く行かなかつた土地である。然るに明治四十二年新潟市關屋地内を掘鑿して湛水を海へ排瀉する様になつてから、漸く水稻の栽培をなし得るや

うになつたのだ。随て何百年沈澱堆積しておつた養分がある爲に今でも無肥料で稻を栽培してゐるものがある。そこで此地には肥料の吸収力の強い、丈夫な稻を栽培する必要があるので。

東郷は新潟縣の奨励品種にはなつてゐないけれども、棄て難い特徴を持つてゐる稻で、殊に肥料の吸収力の強い稻だ。言換へれば肥料の爲めに出来倒れの尠ない稻である。之は山形縣西田川郡に於て選出せられた稻の品種である。今東郷選出の來歴を挙げれば次のやうである。西田川郡東郷村大字猪の子の佐藤政治郎氏は大場より拔穂し二ヶ年間栽培して見たが有望でないといふので之を放棄してしまつた。然るに同村青山の小川康雄氏之を引き受けて、陶汰三年遂に成熟を早め現在の品種に固定したのである。此品種は綿密に調査して見ると多少まだ混りがあるといふ學者もあるが、兎に角よい稻であるこ

とは疑ない。此種は自分が新發田農學校にゐた當時岩船郡より取寄せて、同校で二ヶ年間栽培を試みたが、其成績はよかつた。けれども當時北蒲原郡の中部では龜の尾と、新庄内が、全盛を極めた時代であつたから、東郷は遂に廣く分布せられずになつた。

吾人は本校に轉任するとき之を携帶し同種を學校の實習田に栽培したが、中々成績がよい。大正四年十一月区域内農家の希望により、種籾二斗を分譲した。然るに翌年の成績非常によく、赤原某氏の如きは反當り三石平均の増収があつた。それ以來漸次栽培面積増大して今日に及んだのだが、當時栽培せし東郷は自分の手に這入つてからでも六ヶ年経過してゐる。之に岩船郡で栽培せられた年數を加算すれば優に十年以上たつた勘定である。

そこで純精種の普及を計る爲に、山形縣の原産地から新たに純種二



升を取寄せ、大正九年度は本校水田一反歩を其採種田に宛てた。よつて大正十年春は之から收穫した種粃五石を全村に配布した。

東郷は新潟縣の獎勵品種の二本三によく似た稻で分蘖することが多い。本校水田に一本植ゑの成績は有効分蘖數平均十六本になつてゐる。米質至つてよい外に、藁は細くて使ひ藁に適す近來新潟市場の米商に漸次歡迎せらるゝやうになつた。左に産米検査の成績を述べやう。

### 大字小針産米検査員樋口某氏の成績

| 検査月日        | 種別   | 検査總數 |   | 合格   |      |     | 備考   |                |
|-------------|------|------|---|------|------|-----|------|----------------|
|             |      | 上    | 中 | 上並   | 下    | 計   |      |                |
| 大正十年十月十六日ヨリ | 東郷   | 八七九  | 〇 | 五四五  | 二九七  | 三〇  | 八七一  | 上米ノナキハ湛水地ノ關係ナリ |
| 同十二月二十      | 全検査高 | 四四七一 | 〇 | 二二八〇 | 二二〇一 | 八九九 | 四三八〇 |                |
| 六日ニ至ル       |      |      |   |      |      |     | 九一   |                |

東郷は全検査高の約二割で中米の検査數に對する百分比は六二、〇〇である。以て如何に米質のよいかを立證することが出来る。又検査數の二割が東郷であつたことは産米の統一上喜ばしい現象である

### 二 桃の栽培

西蒲原郡坂井輪字青山より内野に連なる砂畑は、全部畑になつてゐる。此砂畑は桃の栽培に適してゐる土地である。本校創設の翌年大正五年の春此地に桃の栽培を試みようとし、先第一に桃の栽培地を視察する必要があるから、自分は同年八月大字寺尾有志と共に刈羽郡刈羽村大字下高町の桃林視察をした。歸來幾多の折衝を重ねて、同年十一月約三丁歩の桃を栽植した。之寺尾に於けを桃栽培の嚆矢である。其後大正九年には大字小針で約十町歩の砂畑へ桃を植付けた。將來

は此地方より盛んに桃の移出を見るやうになるであらう。

### 三 蔬菜の改良

#### (一) 温床の設置

當地方は新潟市に接續する部落であるから、蔬菜の栽培は中々盛んである。然るに蔬菜栽培上最も必要である温床を設けるといふことを全く知らなかつた。そこで本校で率先して之を設け又は實地指導等をした結果、現今では如何なる農家も温床を設けるやうになつた。温床に生育せしめる苗は主として甘藷苗の養生であるが、中には最も移植を困難とする西瓜の苗を育成し、七月十四、五日頃既に市場へ西瓜を供給するものもあるやうになつた。随つて茄苗、其他の瓜類の苗を温床にて栽培し益々蔬菜を早く市場へ出すやうになつた。

#### (二) 蔬菜の改良

普通の蔬菜栽培に就て最近進歩したのは品種の選擇に注意して來たことである。農家は其栽培技術は相當に進んでゐたが、大切な品種を選擇すると云ふことはあまり考ひられなかつたらしい。そこで本校では種子の共同購入をなして品種の改良を計り、一方農産品評會を毎年開設して、之が奨勵に努力した結果、近來優良なるものを産出するやうになつた。品評會のことについて一言附加して置きたいことは、審査する場合に審査員としての我々は作物改良に對し一つの理想を以て望むことである。若し然らずして單に陳列されたもののみについて慢然審査の決定を與ふるときは、遂に受賞を目的として小面積に品評會用として特殊の栽培をなす弊に陥り、爲に一般作物の改良に何等の影響を與ふることが出來ない様な失敗を招くことがある。

### 第九收支

#### 一 経費の收支

| 年 度    | 職員手當 | 其他ノ経費 | 臨時費 | 計   | 收 入     |
|--------|------|-------|-----|-----|---------|
| 大正 四年度 | 五〇四  | 四〇四   | 一八〇 | 九一八 | 三八、五二〇  |
| 同 五年度  | 五〇四  | 二四八   | —   | 七五二 | 四六、九〇五  |
| 同 六年度  | 五〇四  | 二六八   | —   | 七七二 | 六六、八〇五  |
| 同 七年度  | 五〇四  | 二九八   | —   | 八〇二 | 一〇八、六六〇 |
| 同 八年度  | 五〇四  | 二九八   | —   | 八〇二 | 一四四、一二〇 |
| 同 九年度  | 五〇四  | 三六二   | 四七  | 八六六 | 一二八、三六〇 |
| 同 十年度  | 五〇四  | 四五六   | 九〇  | 九〇〇 | 一四一、八六〇 |

同 十一年度 一、二八四

三七二

—

一六五六

#### 二 生産物の處理

本校實習地の小作料は、小針尋常小學校の學區で負擔することになつてゐるから、其代りとして其收入即ち生産品の賣拂代金は、縣の收入へ繰入れないことに、創立の際約束したのだ。依て、此代金は學校に於て適宜支辨してゐる。今大正十年度に於ける農産物賣拂代金の支途を擧げれば次のやうである。

- 一金一圓 報徳會費
- 一金五十錢 高山會費
- 一金二十七圓 修學旅行補助費
- 一金一圓二十一錢 縣農會報代

第九收支

- 一金二十三圓五十錢 農産品評會費
- 一金四圓 義士會費
- 一金十七圓 田園印刷費
- 一金六圓四十三錢 謙信會費
- 計金八十圓七十錢

### 第十設 備

本校は教室運動場共に小學校のものを使用してゐるから、特別に補習學校の設備としてはない。只先に掲げた農具室と堆肥舎だけである。尙補習學校の備品を挙げれば次のようである。

#### 参考書

五三部

#### 病害掛圖

一綴

- 肥料桶(大) 二本
- 擔桶 八箇
- 肥差 五箇
- 肥柄杓 六箇
- 箕 八箇
- 擔棒 三木
- 鍬 二三丁
- 鎌 二二丁
- ホーク 三丁
- シヤブル 二丁
- 低石 六箇
- 鋸 一丁

### 第十設 備

移植鋤

二丁

山刀

押切

一丁

如露

三箇

噴霧器

一箇

臼

一箇

稻扱器

四箇

篾及篩

四箇

唐箕

一箇

植木鉢

一六箇

溫床戸

六枚

樹

三箇

書棚

一箇

算盤

二箇

焼印

一丁

罫紙盤

一箇

秤

二箇

騰寫盤

一箇

提灯

一箇

點燈用具

二九箇

標本瓶

五〇本

比重計

一箇

肥料標本

一組

解剖器

一組

印鑑  
 武器  
 帳簿  
 鋤  
 田植框

五箇  
 二組  
 一冊  
 一丁  
 一箇

### 第十一 雜 錄

#### 一 七箇年の回顧

大正四年の春江口先生に無條件に連れられて来た自分は、失望落膽の淵に沈淪したことが一再に止まらなかつた。「福島と聞いて来たればと云ふ歌があるが、第一に想像に反したことは、縣で多少なりとも金

を支出して、比較的優良の先生が教鞭を執るのだから、村のものが定めし歓迎して呉れるだらう。自分に對しては餘程好感を持つて居るだらうと思つて来たが、意外のことには有難迷惑と言はぬばかりの様子である。「ありがたいこんだども」とか「先生が鍬持つことを百姓の子に教へるは餘計なことだ」とか云ふことを折々耳にした。

「ヨシ夫ではやつて見せる。サアおれに付いて来いと云ふて田の中へ這入つて、畦畔を塗り初めた。生徒は目を丸くして見てゐる。村人は道に立つて囁いてゐる。

畑を打つても、稻を刈つても一人前の勞働を續けた。秋になつて米の調製をしたとき四斗俵をバラツト擔ねて住宅まで先になつて、運んだことなどありありと目に見える。

こんなことで、普通の生徒は仕事はとても校長に叶はないと悟つた。

農業科に就いての信頼もこんなことが理由の一つになつたのかも知れない。

## 實習地經營の苦心

大正七年五月十日例の通り夜學がすんで宅へ歸つて寢に就いた、處が俄に天氣模様が変わつて來た。其日は苗代の夜干をしてゐたのだ。大雨に打ち込まれたらそれきりだ。そこで六七町ある山添ひの苗代へ灌漑に出かけた。まだ春尙寒い五月初めの暗夜激しい北西の風雨に打たれながら苗代に水のかかるまで居た。其爲に濡鼠のやうになつて眞夜中に歸つたことなどもある。又或年刈取つた稻を全部稻架に掛けたまま翌日出張したことがある。高田市へ着いた晩夕刊を手にしたら七百四十幾耗かの低氣壓が襲來すると言ふ警報が出てゐた。そこで瞬間に頭に浮かんだのは稻架のことだ、十餘間の稻架が中央に

用材不揃の爲一寸弱いところがあつたから心配でたまらない。そこで早速高田郵便局へ行つて小使宛てに電報を打つた。・カゼフクハサニソヒキタノム。此颱風は幸にして其方向を代へたから本縣は二十米内外の風でさしたる被害がなくてすんだが旅館の夕食後四十里餘隔たる高田市から稻架の添木をするに電報で注意とは實に御念に入り過ぎてゐるが實習に責任ある教員には慙した人知れぬ苦心が多い。過去七ヶ年の間に自分として何等反響を與へたと思ふものは一つもない。強て數ふるならば形に表れたるものとしては、職員を各大字に在住して青年を指導させる爲に造つた、教員住宅である。自分が赴任以來教員住宅を四棟造つた、何れも恥しくない建物である。外に運動場を一棟造つた、豊ならざる此學區に之だけの建物は實に非常な奮發である、従つて自分の提案に對して共鳴してくれた學區民に感謝せ

ざるを得なく。

## 二 就學出席の逸話

開校當初入學に就いて日和見をしてゐたものに、樋口某と云ふのがあつた。年齢はたしか二十であつた。此者は青年を支配する腕をもつてゐた。學校ではこんな青年を學校へ引き入れて生徒の取締りをやつて貰ふと、大變都合がよいのだけれども、學校としては君一つ入學してやつてくれと頼む譯には行かない事情があつた。然し樋口其物も學校で勧めたら入學しようと思つてゐたのだ。

夏の或晩のこと石井教諭の蔬菜の時間に自分が教室へ行つたら來てゐる。處が絹のハンケチを頭に深く巻き付けてゐた。自分は遠慮なしに君ハンケチを取つて御話を聞きなさいとやつた。ハイと云つ

てきまり悪げに取つた。初めて來た晩に鼻を折られたのだから、今度は中々來ない。そして自分に對して一種の反感を持つてゐたらしい。然し九月初め頃又そろつて來て、遂に入學した。敵にしては困る味方にしては爲になる青年であつた。其後滿二ヶ年引續き級長をさせたが、學校へ來ては級長として其責任を完ふしたばかりでなく。本校の使命を自覺して、よく働いてくれた。若し本校に多少の功績ありとすれば、其一部分は樋口氏等にも分つべきものである。

遊ぶ爲の入學 大正七年の夏半途に一人の青年が入學したいと申込んで來た。開校以來三年を経過したときである。此青年は十七歳である。小學校卒業後四ヶ年もたつてゐるのだから、此時の入學志願は甚だ遅いのだ。そこで自分は君は今まで入學せずにもたのが、今度改めて入學したいと云ふのは怎云ふ譯かと尋ねた、處が其答が頗る振



つてゐる。「村にゐると遊ぶ供達がなくなりました」。勉強したい爲には普通の申分だが遊ぶ相手がないから仕方なしに入學するとは随分噴飯に堪ない答だ然し其半面には本校の就學歩合が百分の百であることを立派に裏書してゐる。

#### 四 通信教授

茲に述べる通信教授は田園の章下に説明したものと少し異つて、讀方教授の一部を通信によつてやると云ふ意味である。換言すれば生徒に通信文の讀解力を練習せしめる一方法である。それは學校で何か用件があつて生徒を召集する必要があるときは、組長とか獎學係とかを煩はさずに、學校から一々文書を以て通知することである。例へば實習の變更、教授の變更、修養會に關すること等、普通の教授以外のこ

とは全部文書で通知するのだ、此通信文の形式は日用文體、公文書體、普通文體等種々の形で通知する。生徒は此通信を受けて其用件を知ると共に不知不識の間に文書の形式通信の方法を會得することとなる殊に彼等の生活は今後益々謄寫刷の書もので日用を辨ずるやうになるのだから其準備として盛んにやつてゐる。通學距離僅に十町内外の處にゐる生徒へ一々文書を認めて小學校兒童に托すことは随分面倒だが、其効果は充分に認められるのである。今通知の一例として楠公會に通知したものを挙げれば次のやうである。

山も綠、野も綠、岡も綠、森羅萬象ごとく初夏の笑を呈して來ました。越の國でさい此陽氣になりました。まして須磨の地、明石の空に連なる淡川の天地は一段の風光と綠の深さを増してゐることと存じます。願れば延元の昔の今頃は楠風きそはすして忠臣の義戰益々不利に陥り楠氏兄弟の自盡が近づいたときであります。心ない山川草木も昔をしのんで一滴の涙を催してゐることでありませう。楠公、港川の地に眠つて

から、既に五百八十七年になりました。我々は諸君と共に明二十一日は此忠臣義士の靈を慰めるとともに、更に楠氏一族の偉大なる節操を身に體したいと思ひます。  
心の力を賣りますから金貳拾錢御携帯を願上ます。  
大正十一年五月二十日

主事松田萬平

#### 四 農事研究会

一般農家の農事改良を促す機關として、稍期間の長いものに農事講習といふものがあり、短期のものには農事講話だとか實地指導だとか云ふものがある。何れも農藝の進歩發達に對し裨益する處は少くない、然し講話及び講習は、受講者が單に受身の位置に居る爲に、主として講演者の講話を聴取するに止まつて、自己の疑問に對し明瞭なる解決を得ることが困難の場合が多い。そこで本校では叙上の缺を補ひ、又

一方老農の經驗を週知させる爲に、農事研究会と云ふものを開いて居る。農事研究会は土地の異なるにより自然農業上の疑問を異にしてゐるから各字別々に開いてゐる。農事研究会にはどんなことをするかと云ふに、大様次のことをやつてゐる。

- 一、各員の經驗談。
- 一、質問應答。
- 一、試作。
- 一、研究事項の整理。
- 一、關係機關との連絡。

農事研究会には常に自分が出席して、其衝に當つてゐるが、會員を利用するばかりでなく我々が啓發せられる場合が決して尠くない。元來農業に關することは經驗が其基礎をなしてゐるからである。又補習

學校を經營するに、其地方の習慣、農業の年中行事の一斑を知るには非常に都合のよい會合である。

此會は大抵一二三月頃は毎月開くやうにしてあるが其他の月も臨時開くこともある。研究事項の中で最も問題の多いのは肥料に関する事項である。其次は作物の品種と栽培上の注意ともいひたい問題である。研究會が進んで來ると問題は各自が提出するやうになるけれども、初めは學校で當日の問題とすべきものを謄寫して、之を一般に配布し之に就て各自の意見を聞き、又自分の希望や説明を附して置く。

#### 農事研究會の成績

##### 一、藁灰の販賣禁止

此地方は燃料に乏しい處であるから、年中の薪は全部藁である。故

に藁灰を産することが多い、之が有名な西蒲原灰と云つて北蒲原地方へ盛んに供給されたものである。農事研究會に於て藁灰の効果を力説した結果、最早此地方には藁灰を賣る者がなくなつた。爲に灰船乗（あかぶねのり）と稱する船乗業者は大に減少した譯だ。

##### 一、不正肥料の防遏

會では、配合肥料及び人造肥料の性質及び購入等に際しては熱心に研究するやうになつた。之には随分苦い経験を嘗めたことがあるからだ。大正七年春大字小新では或肥料（特に肥料名の發表を遠慮して置く）を千二三百圓價買入れた、其當時自分は其事を知らなかつたがそれは立派な不正肥料である。それはどんな肥料であるかと云ふに、第一に保證票の添付がしてない肥料である。そして農家を瞞着する手段として、縣農事試験場へ依頼して、分拆してもらつたと云ふ、證明書を

印刷したビラを澤山持つて来て、其肥料が安價にして有効な肥料であることを解いて賣り付けた。

其ビラなる印刷物には、出鱈目に多量の含有成分が記入せられてあつた。處が農家は印刷したビラと保證票なるものとの區別が解らなからマンマと乗つて契約した。けれども幸にして肥料代の半額は未拂になつてゐた。十月下旬支拂契約の時期が來たので、商人は嚴しく督促をする場合によつては法廷へ出て解決せんとまで言つて來た。一方其肥料を實際に施用した農家では其効果が表れなかつたので苦情が百出して來た、従つて之が購入に際して世話した人は進退極まつてなすところを知らずと云ふ羽目に陥つた。そこで自分が行つて残つてゐた肥料を調べたら、一度見たことのある不正肥料である。然し補習學校の先生位が鑑定して、不正肥料であるからと言つたところ、

商人に肥料代の差引を迫る譯に行かない。又自分が法廷に立つて證人となる資格もない、そこで直ちに縣の肥料検査所へ願ひ出で分拆して貰つた。其成績は案の通りの不正肥料である。そこで農家では其分拆成績が曩の廣告ビラの成分と甚しき相違のあることを理由として、反對に商人に對し談判を開始した。結局未済の半額を差引くことにして解決した。